

長野県治水・利水ダム等検討委員会 角間川部会公聴会

開催日時：平成15年2月12日（水）午後6時から午後9時40分まで

開催場所：中野市中央公民館3階ホール

出席委員：風間部会長以下19名中16名出席（大熊委員、中山委員、武田(富)委員欠席）

田中治水・利水検討室長

大変お待たせを致しました。定刻となりましたので只今から長野県治水・利水ダム等検討委員会角間川部会の公聴会を開催いたします。開会に当たりまして、風間部会長にご挨拶をお願い致します。

風間部会長

ご紹介に預かりました風間辰一でございます。会場の皆様方におかれましては、何かと御忙しい中、治水・利水ダム等検討委員会角間川部会の公聴会に御参集を賜りまして誠にありがとうございます。開会に先立ちまして、ひと言ご挨拶を申し上げる次第でございます。

この角間川部会でございますけれども、昨年10月の18日に設置をされまして、角間川、夜間瀬川流域の総合的な治水・利水対策につきましましての住民参加の下で、鋭意調査、そして審議を進めてきたところでございます。現在10回を終了した所でございますが、現在のところまだ対策案を1本に絞ってきてはございません。中野市、山ノ内町の住民の皆様方の安全や安心を確保するため、将来の治水、そして利水対策をどのように考えていくことがよろしいのか、広い視野でのご意見を本日の公聴会で賜りたいと思っております。今回の公聴会におきましては、部会で検討いたしました治水対策案と致しまして「角間ダムによる治水対策案」と「パラペットを主体とした治水対策案」両案を提案させていただきました。また、利水につきましましては「角間ダムから水道水源を確保する案」と「新たに井戸水、井戸から取水をし、硝酸・亜硝酸性窒素を除去する施設を併用する案」の両案を提案させていただいております。また、治水・利水対策案の詳細につきましては、後ほど私の方からご説明をさせていただきたいと思っております。

本日はご覧のように部会委員が出席をしております。直接皆様方からのご意見、そしてまたご提言を拝聴する中で今後の部会の審議に、審議そして検討に役立て参りたい、このように思っておりますのでよろしくお願いを申し上げる次第でございます。また、皆様方におかれましては大変短い応募期間であったわけでございますけれども、公聴会公述人に32名の方々にご応募をいただいたわけでございます。部会では大勢の皆様方のご意見をいただきたいと思ひまして、32名全員の皆様方が公述できる形とさせていただきますのでよろしくお願いを申し上げる次第でございます。以上簡単でございますが、ご挨拶に代えさせていただきますが、会場の皆様方には十分ご理解を賜りまして、進行にご協力をお願い申し上げます。心からよろしく願いを申し上げます、ひと言ご挨拶にかえさせていただきます。本日はご来場ありがとうございました。

田中治水・利水検討室長

ありがとうございました。それではここで本日ご出席の委員の皆様、ご紹介させていただ

きたいと思います。まず部会長から向かって左ですが、部会長代理の竹内委員でございます。石坂委員、植木委員、大井委員。後列になりますが、倉並委員、小林剛委員、小林守委員、小林優子委員、そして篠原委員、高田委員、武田富夫委員、土屋委員。前列になりますが、樋口委員、松島委員、綿貫委員、以上の皆様方です。失礼いたしました。武田洋委員さんです。どうも失礼いたしました。

それでは公聴会に入る前に、対策案について部会長よりご説明をお願い致します。

風間部会長

それでは私の方から治水・利水対策案につきましてご説明を申し上げます。御手元でございます資料をご覧いただきたいと存じます。それでは角間川(夜間瀬川流域)に関する治水・利水対策案について説明をさせていただきます。資料は4ページでございます。1ページ目は私達が部会にて審議を行ないまして、ダムによる対策案とダムによらない対策案を取りまとめたものでございます。そして、2、3、4ページは治水及利水について部会審議の内容を具体的に記述したものでございまして、1ページ目の参考資料と考えていただければよろしいかと存じます。それでは1ページ目をご覧いただきたいと存じます。

先ずはじめの四角い枠の中でございますが、角間川部会の設置理由や本日の公聴会の意義を記載してございます。田中知事の「脱ダム」宣言を受け、長野県議会にて「長野県治水・利水ダム等検討委員会」を設置いたしました。この条例により知事から角間川の「ダムを含む総合的な治水・利水対策」を検討するように諮問され、角間川部会が設置されました。角間川部会では将来の角間川(夜間瀬川)の洪水対策をどうすることがよいのか、また、中野市及び山ノ内町の水道水源をどこから取水することがよいのかについて、いろいろな観点より検討を重ねてきました。中野市及び山ノ内町に住む住民の皆さんの安全や安心を確保するため、将来の治水・利水対策をどのように考えていくことが良いのか、広い視野でのご意見をお聞かせ下さい。ということでございます。

次に治水・利水対策を検討する上での前提条件をご説明させていただきます。先ず、治水でございます。計画規模(治水安全度)は100年に一度の割合で起きる程度の洪水に対応できる計画とする。基本高水流量は、千曲川合流点で1,020m³/sとし、星川橋下流で830m³/sとする。流下断面が不足している星川橋下流～穂波大橋間、夜間瀬橋下流について検討する。橋梁の桁下余裕高は1.5mを確保する。現在実施している上流での地すべり防止工事、治山工事、砂防工事を進めるとともに、中・下流部においても流路の複断面化による偏流対策、護岸強化、堆積土砂の除去を引き続き実施していくものとする。

次に利水でございます。現在の水道取水可能量、平成12年で中野市 19,249m³/日、中野市 13,880m³/日である。部会で決定された将来の計画取水量 中野市 23,780m³/日、山ノ内町 15,330m³/日とする。計画取水量のうち、中野市 10,000m³/日、山ノ内町 3,000m³/日を新たな水源として確保する。現在の中野市の水道水源状況：地下水から硝酸・亜硝酸性窒素が検出。表流水はヒ素が基準値を超過している。伏流水は鉄・マンガンが基準値を超過している。現在の山ノ内町の水道水源状況：地下水、表流水及び湧水などの水源の一部に水量の減少が見受けられる。

環境についてでございます。取得取水の安定化と河川環境の保全を図るものとする。新たな水源に関する今後の課題でございます。北陸新幹線高社山トンネルの湧水については、今

後日本鉄道建設公団北陸新幹線建設局と緊密に情報を交換し、新たな水道水源としての活用を検討していく必要がある。農業用水の転用については、水利調整は当事者間での合意が原則であるため、早急な問題解決には至らないが、今後も当事者間の話し合いを続けていく必要があるなどの意見がある。次に今の事についての補足説明をさせていただきます。まず北陸新幹線高社山トンネルの湧水のことでございますが、工事を施工しております日本鉄道建設公団から湧水の状況や地質等の資料提供を受けまして、更に県の窓口であります高速道・北陸新幹線局の職員の方から直に説明を受け審議を行なったところでございます。そして湧水量はトンネル完成後に減少するのが一般的であり、水量を定量化することが出来ないため利水の代替案とはしないことと致しました。しかしながら非常に魅力のある水源であることから情報交換を緊密にし、将来活用への含みを残したものであります。また、下の農業用水の転用についてでございますが、現在でも渇水期には農業用水が不足して困っていることや、水利権者との調整に相当の時間を要するため利水の代替案としないことといたしたところでございます。しかしながら、水利権者は水道受益者であり、限りある水を融通しながら有効利用する方法はあるのではないかと部の意見があったことを付け加えをさせていただきますと存じます。

次にその下になりますが、大きな四角で囲っている部分がございます。この中で記載されている事項がこの公聴会で私たち部会より皆様にお聞きをしたい治水・利水対策でございます。左側が治水対策、右側が利水対策となっております。また、それぞれの上段がダムによる対策案、下段がダムによらない対策案となっております。では、左側の治水対策より説明させていただきます。先ずダムによる案は多目的ダム案でございます。対策の概要。角間川貝鐘砂防堰堤下流に多目的ダムを建設する。ダムにより、130m³/sの洪水調節をする。ダムの規模は堤高70m、堤頂長173m、堤体積約20万m³である。次に利点、欠点でございます。ダムの洪水調節により、下流地域の治水効果が得られる。洪水時の異常な土砂流出や流木を防ぐことが出来る。維持水量を確保することにより、水質保全や渇水期における魚類等の生育環境を確保できる。ダム建設は、周辺の自然環境に負荷を与える。多額な費用がかかる。異常な堆砂によりダム機能の低下が懸念される。概算費用でございます。()内は市、町の負担でございます。ダム建設にかかる費用、約250億円。国庫補助率は2分の1でございます。内、市、町が負担する費用。中野市 約18億7千万円、山ノ内町 約5億6千万円、計約24億円でございます。次にダムによらない対策はパラペット案でございます。下段をご覧ください。星川橋から穂波大橋間は、主に堤防にパラペットを設置することとし、穂波大橋の橋桁余裕高不足を河床掘削とする河道対策の組合せとする。夜間瀬橋下流は、床固工の水通し断面の拡幅とする。パラペットの高さは、約10cm～40cmとし、左右岸に設置される総延長長は、約300mとする。次に利点・欠点でございます。河川掘削の実施に当たっては、温泉源泉調査、希釈井戸調査、地下水調査などにより詳細な調査が必要である。ダム事業費より安価である。ダム建設より、自然環境への負荷が軽減される。必要に応じ、堤防の強化等を実施する必要がある。景観が損なわれる心配がある。渇水期における河川維持流量の確保が出来ない。天井川を助長する結果となる。概算費用でございます。河川整備にかかる県の費用、約3億円。市、町が負担する費用はございません。パラペット案について補足説明をいたします。3ページのダム代替案詳細図をご覧ください。一番上の現況図(床固工左岸部)とありますのが、今の夜間瀬川の構造でございます。水の流れは矢印の通りです。左側の改

修イメージ図をご覧ください。失礼、右側でございます。右側の改修イメージ図をご覧ください。図の堤防天端道路と記載しています右横にありますのがパラペットで長さ 15m～52mと矢印があります。このパラペットを施工することにより河川断面を確保するものでございます。また、穂波大橋は河床を掘削することにより河川断面を確保するものでございます。以下平面図や写真を参考としていただければ幸いです。次に1ページに戻っていただいて右側の利水対策を説明をさせていただきます。先ずダムによる案は多目的ダム案でございます。対策の概要。水道水源として40万 m^3 を貯留し、中野市と山ノ内町併せて13,000 m^3 /日確保する。下流のかんがい用水や河川環境を維持するために不特定用水として63万 m^3 を貯留する。利点・欠点でございます。水質の不安定な水道水源の転化が図られ、安心した水道を供給できる。貯留することにより安定した水量の供給が図られる。ダムからの水源取水は、自然流下方式であり、経済的である。渇水時の安定した河川維持流量の確保とかんがい用水への補給が出来る。ダム貯留水の水質低下が懸念される。概算費用でございます。全額市町負担額となっております。中野市の水道建設費用(取水、浄水、導水、配水施設等を含む)。初期投資額：約59億円、100年換算投資額：108億円。初期投資額約59億円、100年換算投資額約108億円でございます。山ノ内町の水道建設費用(取水、導水施設等を含む)初期投資額：約7億円、100年換算投資額：約12億円。注といたしまして上記の水道建設費用には、ダム建設において市、町が負担する費用(中野市18.7億円、山ノ内町5.6億円)を含むということでございます。次にダムによらない対策は地下水を利用した井戸案でございます。その下をご覧ください。中野市については井戸5本を施工し、水道水源1万 m^3 /日確保する。但し、硝酸・亜硝酸性窒素の除去施設を併用する。山ノ内町については井戸6本を施工し、水道水源3,000 m^3 /日確保する。利点・欠点でございます。井戸の位置を決定するにあたり、物理探査、井戸試掘、揚水試験が必要である。必要に応じ、硝酸・亜硝酸性窒素を除去する施設を併用する必要がある。ダム建設より、自然環境への負荷が軽減される。地下水汲み上げにより地盤沈下や地下水位低下が懸念される。将来、枯渇の可能性がある。電気料・維持管理費などが高くなり給水原価へ大きな影響が生じる。次に概算費用でございます。中野市の水道建設費用。井戸、除去、取水、浄水、送水、導水、配水施設等を含みます。初期投資額：約62億円、100年換算投資額：約354億円。山ノ内町の水道建設費用でございます。井戸、取水、導水、送水、配水施設を含みます。初期投資額：約19億円、100年換算投資額：約154億円でございます。井戸案について補足説明をさせていただきます。現状では詳細な地下水調査を実施しておりませんので井戸の位置、水量、水質は不確定でございます。このため井戸の掘削には電気探査や、井戸の試掘、水量を測る揚水試験費、及びポンプや電気設備費などを含んだ金額となっております。井戸の本数につきましては既設井戸の実績より推測をし、中野市では1本あたり2,000 m^3 として5本、山ノ内町で1本あたり500 m^3 /日として6本の井戸で積算をしております。また、中野市の井戸は硝酸・亜硝酸性窒素の除去施設を新たに掘る井戸5本に設置する計画で積算をしております。山ノ内町は渇水期の水量変動が大きいことや観光客の水使用に対応する為の配水施設を含んだ積算となっております。多目的ダム案との比較を明確にするため100年換算投資額を記載してございます。これは導水管、浄水施設、ポンプ等、それぞれに耐久年数というものがございまして、その耐久年数が経過した施設の交換に関する費用を100年間分計上した金額であります。しかし、ここに示しております金額はあくまで一つの試算でございまして、以上申し上げます。

と問題点を説明させていただきます。取水の状況等は記載の通りでございますが、中でも特筆すべき事項といたしまして、砒素が基準値を超えている井戸が1ヶ所、硝酸・亜硝酸性窒素が検出されている井戸が2ヶ所、表流水も砒素が検出されており、いずれも現在希釈して使用しているところでございます。中野市は将来計画取水量の内、1万m³/日を新たな水源で確保する必要がございます。次に山ノ内町上水道の現状と問題点を説明させていただきます。山ノ内町の水源は小規模な水源が多く点在をし、かつ、湧水や表水流などの湧水や、天候に左右されやすい不安定な水源に頼っていることが特徴として挙げられます。次に右側の主な利水対策をご覧ください。農業用水転換案をはじめ、部会の委員から様々なアイデアが出されました。一覧表として記載してございます。また、それぞれの案に対する部会審議での問題点や課題が右端の欄に記載してございます。これらの案を踏まえまして、当角間川部会ではダムによらない対策案を決定いたしました。一番下の欄に書いてございます。ダムによらない代替案とありますが、これはダムによらない対策案の意味でございます。様々な観点から問題点や課題を検証し、井戸(地下水)により新規水源を確保する利水代替案とする。井戸の位置を決定するにあたり、物理探査、井戸試掘、揚水試験等の地下水調査が必要である。砒素や硝酸・亜硝酸性窒素の除去施設から発生する廃棄物の処理が必要となる。以上でございます。

以上が皆さんに今晚御伺いをしたい治水・利水対策についての説明でございます。それではこれから皆様方からお聞きをしたご意見を今後の部会の審議やまとめに役立てていきたいと存じますので、どうか忌憚の無いご意見を賜りたいと心からお願いを申し上げます。以上説明にかえさせていただきます。ありがとうございました。

田中治水・利水検討室長

はい、それではこれから公聴会の方に入りますまいりますが、議長は風間部会長にお願いしたいと思います。それで公述に当たっての留意点と申しますか、ちょっと申し上げたいと思いますので、お願いしたいと思います。議長が番号を言いますので、公述される方はマイクの前にお進み下さい。お出で下さい。先ず公述される方は住所と氏名を述べていただいて、意見の公述をお願いしたいと思います。あの地番まではいりませんので、字までで結構です。それから一人5分間ということをお願いしたいと思います。それで、4分30秒でベルを一回鳴らします。5分たちますとベルを2回鳴らしますので、速やかに公述を終了していただきたいと思います。ちょっと一回鳴らしますので、ちょっと一回お聞き下さい。(ベル音)これが一回目ですね。5分たちますと2回鳴らします。(ベル音2回)おわかりでしょうか。それで時間の方をお願いしたいと思います。それで、公聴されてる方をお願いしたいと思いますけれども、公述される方が落ち着いた環境の中で公述していただけるように考えておりますので、進行の妨げにならないようお願いしたいと思います。それでは風間部会長、公述の進行の方をお願い致します。

風間部会長

それでは只今から皆様方のご意見を拝聴させていただきたいと思います。それでは先ず1番の方よりお願いをいたします。

蔵谷伸一公述人

1番でございます。中野市西町の蔵谷伸一と申します。公述の機会を与えていただきましてありがとうございます。早速公述させていただきます。私の望みは利水に関してでありまして、二つになります。一つ目は美しい、美味しい水を安く飲みたいということでございます。二つ目はその水を将来に渡り安定した供給をして欲しい。先ず利水に関してはこの二つの大きな望みがございます。皆さんもご一緒かと思えます。久し振りに中野市の第三次総合計画の政策大綱を開きました。ちゃんと書いてありました。「水の安定供給と水資源の保全」ということでもございました。そのまま実行していただければ大変ありがたいと思えます。現在、千曲川の伏流水、田麦の浄水場から取水を、給水をされております。それを飲んでおられる市民の方にお聞きしますと、市内で一番まずい水だそうでもございまして、特に夏はまずい。今までは、こうゆう同じ住民の方でこんな話をされておりました。いつか、近い将来、角間川の美味しい水が飲めるから、今多少まずくても我慢、我慢と言う話をされておりました。もう一つ大事な水源の井戸水でございますこれはいつ枯れるかわからない不安があります。そしてもう一つは井沢川の表流水であります。一番私共、素人が怖い砒素と言う言葉を聞きます。これが基準値以上と言う最も怖いお話でありまして。後方に志賀高原の山々を有しまして豊富に雪解け水が存在する山紫水明の地ですね、わざわざ100kmも流れてくる濁った千曲川の水に頼る事自体、私は不自然ではないかと思えます。今後、中野・山ノ内合わせて1日に1万3千m³も、まあ10年先にですね、水が増えると、供給しなければいけないとお聞きしますと、これから先にまた、水量も水質も不安定な地下水頼みの井戸を増設するよりも、美味しく安定した水が期待できる角間川を堰き止めて是非飲ませていただきたい。今盛んに議論されております、コンクリート等のダムが将来、あるいは現在も環境や自然に有害であるのであれば、技術を駆使して違った工法や材料で堰き止める方法もあるのではないかと思います。付近に素晴らしい川が無いのであれば仕方がありませんが、今更井戸を掘るなんて博打みたいな政策は是非止めてもらいたいと思えます。先程の説明にもありましたけれども、概算費用を見ますと100年換算の投資額で見ますとダムと或いはパラペット案と比較しましても3割や4割ぐらいパラペット案の方が100年投資を含めて概略加算をしますと掛かるわけでもございまして、多額の費用の面から見ましても私は一番不自然だと思えます。あの知事さんがおっしゃるですね、あの長野県は自立したとか、或いはそのしなやかとかと言う理念は判るんですが、現実を見ますと、まだ私共の税の6割は国税で、国であります。4割が地方税で県を含めた市町村であります。で、ダムを作ると250億と言う話がございましたが、これは全部国と県が半分づつお出しになるんでありまして、地域からしますと、この制度、税制を変えてですね少なくとも国4割、地方6割ぐらいの自主財源を増やしていただければ、これは名実共に地方分権ですね、速やかなまた、地域が育成できるのではないかと思います。現在の税法の中で補助金返します、いりません、じゃあその補助金どうするんですか。違った目的で県が使えるなら良いんですが、他の県にみんな回っちゃうわけですから、それを考えますと何故私共6割国税を取られながら、日本国民として享受できる権利まで放棄しなければいけないのかと。私共どんどん貧乏県になってしまうような気がして仕方がありません。私共の補助金をどうぞ他の県でお使い下さい、私共は我慢をして長野県自立の為に今辛抱しますという、本当の意味の事をどれだけの県民が理解しているのかなと思えます。私は是非、いただくものはいただいてですね、そんな神様仏様みたいな人

はまずあまり居ないと思いますので、そんな日本国民としての当然の権利もやはり享受したいと思います。そしてその井戸水が枯れたり、地下水の流路が変わって給水制限等の事態にでもなったら誰がその責任を取ってくれるのでしょうか。これ、取りようが無いと思います。どうか角間川を堰き止めて、美味しい水を安定して取水出来る方法を見つけて下さい。あと15秒です。現在、田麦の名水と言うのも枯れました。新幹線の工事のあれでございますが、井戸を掘って、新しい井戸を掘ると今の井戸が枯れる場合もあるわけですし、地下水のことは誰も判りません。どうぞ美味しい水を安心して飲めますような方法をお願いします。治水に関しては優秀な専門家にお任せしますが、代案のパラペット案みたいな、取って付けたようなのは是非止めてもらいたい。こんな案が実現するわけが無いんで、環境や景観と言われながらですね、観光地山ノ内の堤防に歯抜けのようなあんな壁が出来るわけが無いんで、一つもっと現実化したような議論もお願いできれば幸いです。ありがとうございました。

風間部会長

はい、ありがとうございました。それでは続きまして2番の方よろしくお願い致します。

竹節邦男公述人

2番山ノ内町の竹節です。私は角間ダムの地元住民としてダム賛成の意見を申し上げたいと思います。まあ、前の資料にもございましたとおり25年の穂波温泉の流出、それで34年ですか、栄橋の流出、それでまた、平成10年の大水と、私はたまたま役場の職員という立場で、これらのすべての内容を把握し、最後の大水の際には、地域が角間川の両側にあるわけでございます、そこの堤防決壊の件で県に再三お願いに参ったわけでございます。土砂の取り除きも行なわず、それでまた、堤防の嵩上げも出来ず、そういうような形でもってきたわけでございますが、この大水の際には、たまたまその旨の総代を預かってまいりましたので3時間ほど真夜中に現場へ行きまして、もし決壊の恐れがある時には避難命令を出さなければならないというような事もございまして、立ち会いをいたしまして、大変地元の皆さんに、ま、いい事をしてくれたと褒められたわけでございますが、それからいろいろ私から申し上げるまでもございませぬ。角間川の上流は昔からの佐久間象山先生の推名によります森林の造成地でありまして、本当に水は立派な水だと自負しております。こんなこともございまして私は角間林道から始まって林務工事長係として40有余年の間ご厄介になりまして、未だにそんな形でもって従事させてもらってますけれど、県へ夜間瀬川の水を、新潟県への水を4万m³と言う水を昔からの、明治時代からの問題で解決しまして計画実施ということで利用させていただいて、その水もパイプによる送水によりまして、しかもダムを、小さいダムでございますけれど造りまして、一定の水を供給するために努力したというようなことで、これも中野市の関係も若干ございませぬけれども、その他にも中野市で言えば深沢堰、それから山ノ内の北志賀高原にございませぬ利用開発のと、県営事業の、東京電力の関係、東京、新潟、中野市、木島平と、後方の水源の皆様方とそれぞれ土地交渉、あるいは水利交渉をいたしまして参ってきたわけでございますが、まだここで水が足りないという問題がございませぬ。それから角間地域につきましては特に山の崩壊が酷いわけで、私は時効でございますので申し上げますが、乗ってはいけない索道を利用して対岸まで移りまして測量し、あそこに行って治山堰堤を造らせてもらいました。そんな関係もございまして、だいが崩落も治ってきた

わけでございますけれども、20年ほどですか、前に造った角間ダム、小さなダムでございますが、このダムが県知事さんの話によると、あんなもの終っちまって銭ばかりかかってダメだと言う様なことでございますが、あのダムが出来たからこそ山が納まったんだと私は理解しております。その時の当事者の一人でもございまして、今度またその上に、その前のダムを処理して、その上にダムを作るということは非常に良い事ではなからうかと。それでまた、水と人間は切っても切れないものでございまして、こんな事で全てのものが解決されていったのじゃ、ここですぐ発生する町村合併の問題もございまして。そんな中で合併してからまた、この問題がどうしたら良いのだろうという事になったんでは困ると。その前にもっともっと皆が真剣に話し合っただけで検討して、皆が納得するような形でもって進めてもらいたいと、こんなふうに考えております。実は私、先程いろいろご報告がございまして...

風間部会長

恐れ入ります、時間が来ておりますので簡略にお願い致します。

竹節公述人

あの最初から委員会を作りながらダム無し案という形でもって提案されてきたという感じが見受けられる。もっと大勢が、皆が納得できる会合をもって最後案を是非お願いしたいと考えております。よろしく申し上げます。

風間部会長

はい、ありがとうございます。それでは引き続き3番の方お願い致します。

藤岡与里公述人

私の名前は藤岡与里と申します。山ノ内町の金倉という部落に住んでおります。山ノ内町の湯田中の生まれでございますけれども、結婚して東京に30年ほど住みまして、60歳の時にまた生まれ故郷に戻ってまいりました。ちょうど13年になります。その時に山ノ内町の人口は2万人ちょっとオーバーしておりました。そして13年経ったつい先月の公報を見ますと1万6千人を切りまして1万5千人台になりました。この13年間に人口は約5千人弱減ってるわけですね。これは水道を使う人も税金を払う人も減ったということで、ごく物理的な計算ですけれども、後35年経てば山ノ内町の人口は0になると、有り得ないことですが計算上はそういう事になるわけです。ですからつい2,3年前に水道料金が値上げになりました。そのとき何故値上げになったかと言う事を議員の方に伺いましたら、景気が冷え込んで観光客が来なくなって、特に女性客が減ったから、髪を洗ってくれる人が少ないので旅館の使用量がものすごく減って、今水が余って水道行政は大赤字でどうしようもないので町民の皆さんに値上げをするということでした。ですからこれから山ノ内町がこれ以上水道の用水が必要になると言うことが町民に納得させるには、この数字では大変納得し難いものがあると私は大変不審に思いました。私も割りに理解力ある方なんですけれども、ちょっと何かまやかっぽい様な数字のように受け取りました。それからサンデー毎日で家におりますものですから、つい友人に誘われて、私は20歳の時に夜間瀬川の洪水も目の当たりに見た経験もございましてけれども、角間ダムと言うのは全然知らなかったものですから、その予定地という所に連

れて行ってもらいました。そしたら連れて行ってくださった方、私より3つ、4つ年上の方なんですけれど、ここは以前大きなダムがあって、水が満々とあって、僕が若い頃は岩魚を毎日のように釣りに来たんだと言われて、ものすごい石ごろごろの河原で、そんな昔ダムがあったなんて信じられない、その予定地の上に更に遡って行きますと志賀高原の某平の右手になる崩落地点で、物凄いバラバラと目の前で石が落ちてくるような酷い崩落地で、そこにダムを造ったら忽ち堆積して、あつという間に満杯になってしまって、却って土石流とか、いろんなことに、ま、専門的には判らないんですけど、そういう心配があるんじゃないかなという事を痛切に感じました。それから間もなく県会議員の方の实地踏査があるから、また行かないかと誘われて、今度は西館山の裏の地すべり地帯というのを見ました。もう73の私には誰かに手を引いてもらわないと歩けないような、つんのめるような坂を下りて行きましたら、中野の建設事務所の方が雪解けになると毎年ここに来る時には一番先に道を作って降りて行かないと、車も通れないんだ、これが去年作った道、これは一昨年作った道と言って、あちこちにちょん切れた道の残骸が残っておりました。あー凄い地すべりだなと思って、あの聞きましたら、ここは和合会の人達も昔から心配して、こうしてせぎも作ってあるんですよとご説明下さったら、杭を打ってそこに板を渡した、もう自分たちの山を守ろうとして必死になって水はけの水路を作った跡が残ってありまして、あーずい分皆山を守る為に苦労したんだなと思ひまして、これはずい分志賀高原はスキー場なんか作って山が、木を切っちゃったりしたから、こんな風になったんですかって聞きましたら、おばさん、そうじゃなくて、ここは元々地すべり地帯で、物凄く粘土質があって、水が滲みていけないんで、なかなか大変な所で、僕たちも頭が痛いんですよっていうふうに説明をしていただきました。ですから、これから観光客も爆発的に増えて、昔の夢よもう一度と言うようなお金儲けの時代は去って、志賀高原にもいっぱい小学校の友達がおりますけれど、みんな今昔からのお客様を大事にして、家族で忙しい時だけ人を頼んで、驕り高ぶった気持ちをやめて堅実な旅館経営をしなければならぬという事を何箇所もの人からも聞きました。ですから皆さんの英智を集めて、ダムや何かと使う、みんな皆さんの税金ですから、無駄にならないような使いかたをして良い結論を出していただきたいと思ひます。ありがとうございました。

風間部会長

はい、ありがとうございました。それでは引き続き4番の方、お願い致します。

大月昭二公述人

4番目の中野市西条の大月昭二と申します。公述の機会を与えていただきましてありがとうございます。私はダム賛成と言う立場で意見を述べさせていただきます。私は夜間瀬川から上流の公共河川工事に30年近く関わって来ました。今日は一市民として、また一技術者として自分の考えを聞いていただく事が民意の方向に少しでもお役に立てばと思ひまして今日の公述人募集に応募いたしました次第でございます。三つの提案がございます。先ずはじめに、ダム建設賛成の立場からダムの非を問う前にもっと皆様を知っていただきたいことがございます。工事を手掛けた30年間の間に数多くの自然災害に遭遇し、出勤もして来ました。その体験から県、山ノ内役場に呼びかけて手弁当で地域住民の皆さんに参加していただき、河川の実情を知っていただく機会を続けてきました。無駄な公共工事削減もっともです。しかし、

ダムについて広大な土地保有国と比較することは如何でしょうか。ここは日本であり、影響ある地域の住民は中野・山ノ内の住民です。私はリュックを背負って何十回となく自分の足で川を歩き、自分の目で確かめてまいりました。自然環境が破壊されるから、景観が損なわれるから、非を唱える数多くの皆さんの言うことです。こう発言された方はご自分の足で現在急峻な山奥で、砂防ダムを含め、どのような河川構造物があり、災害時にはどのような役割をしてきたか見ていただいているのでしょうか。私も全てのダムを肯定するものではございません。しかしこの急峻な地域にはダムによる治水・利水、環境整備が必要と思います。急峻な地形の中で必要最小限に施工され自分の役割を果たしている既設構造物を目にされた時、ダムの必要性がきつとご理解いただけると確信いたします。

現地見学会を希望されるのであれば、いつでも案内役を買って出たいと思っております。

二番目、利水について。ダム無し案の場合に主体になる取水についての問題点を述べさせていただきます。今使用されている集水井は深さ 100m以内であり、井戸の中から集水横穴ボーリングを行い地下水の確保をしております。この工法では永久的に水源確保が保証されないことです。皆さんの中には井戸は一度掘れば半永久的に一定量の取水が可能と考えられている方が多いのではないのでしょうか。水の中のいろいろな成分が横穴のボーリングの集水管の穴を塞ぎ、取水能力が低下し、年月が経てば目的取水量の確保が出来なくなることが実情です。また、費用対効果の関係から 100mの深さが限度であり、近年農薬を含めた汚染が著しく現れてきていることです。取水能力が低下すれば、また新たな集水井建設を行わなければなりません。この費用は誰が負担するのでしょうか。掘った井戸により水質に違いがあり、毎日まずい水を飲まされてる地域をご存知ですか。豊富な流量から利水され、同一の飲料水を飲みたいと思いませんか。自然豊かなこの地域に住む住民として、子孫、末代まで一番必要な飲料水の最良の確保を考えた時、ダムによる角間川からの利水が最良と思うのでございます。

三番目河川環境整備について。残念なことに、この河川環境整備という点で部会の方たちは何一つ提言されていないと言うのでございます。平成 9 年度に改正された河川法の一番の特色は河川環境の整備です。私は夜間瀬川の両極端を仕事に携わりながら見てまいりました。災害時の何トンもある巨石が轟音と共に濁流で火花を散らしながら河川を飛び越える勢いで流れて行く様、渇水期、流量低下した時、高社大橋から下流で何処に流れているか判らない川、このような状況を見てきました。脱ダム意見の中で建設される、ダムサイトの環境を取り上げる方は大勢いらっしゃいますが、故郷を流れる川その物の環境を取り上げ、発言なされる方が居ないことに非常に寂しさを感じます。治水が安全で水量の安定した清らかな川縁で、小さな子供達が自由に自然と触れ合える環境、渇水期でも千曲川の魚が夜間瀬川を自由に行き来出来る環境、この環境はダムでなければ作れない環境です。故郷の川を守り、後世に残して行く河川環境整備はダムあって為し得るものと思います。持ち時間が経過しましたが、あと 3 秒。治水・利水・環境整備の 3 点から、私達の地域にもっとも必要な工法はダムであると考え次第でございます。以上です。ありがとうございました。

風間部会長

ありがとうございました。続きまして 5 番の方お願いいたします。

大塚一夫公述人

中野市田麦の大塚一夫と申します。いただいた角間川部会の資料、更には4回ほどの部会審議を傍聴させてもらっただけの真に乏しい知識、そしてまた、認識の中ではありますが、私なりに意見を申し上げたいと存じます。私は市民の一人として、安価で安心、安全な美味しい水を安定的に供給していただきたいという願いを持つ者であります。そんな観点から治水対策、利水対策について示された多目的ダム案、ダム無し案を総合的に比較検討した時の結論として、私は脱ダムの理念は理解しつつも、当地域においては多目的ダム案に依拠せざるを得ないと考えます。その理由として、先ずダム無し案は治水対策費用は大幅に少なくなります、利水面の費用は井戸の掘削、硝酸・亜硝酸性窒素等の除去施設、取水、浄水、送水、導水、配水施設、動力費、用地費等々、将来を含め大きく膨らみダム建設に比べ3倍から10倍以上となっており、水道料金への跳ね返りが必至と思われるからです。次に部会審議の中で私の住む長丘地区に日量2千m³の新たな深井戸を5本掘削し、日量1万m³を確保する案が示された所でございます。地下水が降水が地下に涵養された緩やかに循環する再生可能な資源ではありますが、それを持続的に活用する為には水循環と調和させて、過剰な用水を避けつつ適正利用することが不可欠であると言われております。長丘地区は飯山市と境界を接し、積雪も多い所から、冬季の道路除雪の為に既に5本の井戸を使用しているところであり、その家庭用井戸への影響も含め、地区の事情も考えない一方的な井戸案は不安がいっぱいあります。また、井戸の耐用年数は10年と言われており、将来枯渇が心配をされます。田麦の地の田園地帯には大清水、中清水、北清水と言う字名の広い農地があり、私の小さい頃はあちこちで滾々と湧水が出ており、農作業の合間などにたんばの葉等で喉を潤したものでございますが、扇状地の上方で水田が畑になったり、家庭に突き井戸の普及、道路の舗装化等により、今ではその名残さえ留めておりません。以上大変簡単ではありますが、代替案は地質、試掘、水質等の調査も行なわれない比較の為の如何にも急ごしらえの感を否めないものであり、更に住民負担の増大が懸念されるものであります。周到な建設計画の下、反対運動もなく進められてきた多目的ダム建設が現状においてはベストな選択であろうと思うものであります。以上であります。

風間部会長

はい、ありがとうございました。続きまして6番の方お願い致します。

関信夫公述人

山ノ内町の平穏に住む関信夫でございます。本日の公述人に選定されまして大変ありがとうございます。私の思っている事を聞いていただきたいと思えます。私は治水対策として、多目的ダム案が適当と考えております。山岳地帯の災害は鉄砲水、土石流の災害が多く、角間川の上流も急流で、狭隘の為に土石流災害が多発して来ました。水害は水脈の上流部で食い止めるということが防災上の第一要件であるということは昔から聞いているわけございまして、その災害の一番元になるのは土石流であります。土石流を防ぐには貝鐘砂防堰堤、角間川屏風砂防堰堤を改修し、土石流の貯留積地を設置していただき、多目的ダムへの土砂の流入を防ぎ、下流の村落への被害が皆無になる事を願って信じているわけでございます。多目的ダムの周辺の自然環境に負荷は少ないわけです。建設費は多額であるが、住民の生命、

財産を守り、生きる為の水であるので投資は惜しむべきではないと思います。ダムは異状堆砂土は浚渫技術が良いので、それは解決できると思います。

利水対策について報告を致します。多目的ダムによる水道水源による中野市・山ノ内町の住民は勿論、動植物までも恩恵をよくし、潤いのある豊かな生活を出来る事を喜んでおります。ダムの貯留水の水質の悪化が懸念されておりますが、ダムサイドに特別な水路を設け、適時ダムの下層部に注入し、下層部の水を上昇させて、水質の均等化を図れば、それで問題は解決すると思います。ひとつそういう事で私の多目的ダム案に賛成の事を報告申し上げます。ありがとうございます。

風間部会長

はい、ありがとうございました。続きまして7番の方お願い致します。

山本守公述人

私は山ノ内町から参りました、名前は山本守、うかんむりに寸です。公述人と言うこんな良い機会を設けてくれましたことを、先ずありがたいと思って御礼申し上げます。私はダムは無駄であり、反対であります。私はどういう立場からそういう事を言うかということ、私は今は便利な石油とか燃料があるんですけども、私共が育ち盛りの頃は自分で燃料を確保しなければならぬが為に、安南平に何十年と入り込んで燃料を確保したものです。その関係で安南平にはよく通ったものであります。生活の為に、で、先程も話しにありましたように、昭和25年の水害を契機としてですね、植林事業が盛んになったんです。それで穂波の森林組合より山を小分けしていただきまして、そこに私共は洪水を防ぐということで、それともう一つは将来の用材として育てるといふ、二つの意味を持って勧められて、森林組合から勧められて三割程家でも買い求めまして、植林したものであります。その後、植林、育成されるにしたがって、洪水の危険は非常に少なくなってまいりました。それから穂波温泉を流したような洪水は聞いてないし、経験しておりません。先程から皆さんのご意見を伺っておりますと、ダム欲しいという方は、ここにダムあり、先ずダムを作る為のいろいろご意見なんで、それはそれで、まあ美味しい水をいただく為には無理からぬ話とは思いますが、私がダムの建設を承ったのは、北野建設があそこのホリデーパークを作ると、安南平にということから始まったんです。だけど北野建設は20年そこそこの幼木を、1年くらい切り出したんだけど、如何せん道路に金がかかって駄目だということで途中で断念したわけですよ。その後を受けて今は亡き山ノ内の町会議員であられた或る方が安南平にスキー場を自力で作りました。ところがこれも倒産ということで今は廃墟になっておりますが、もし皆さんが先程おっしゃったような形で美味しい水を欲しいのだったら何であんな所に建設を許したのか。私はそんな矛盾した話は受け入れるわけにはまいりません。それよりも私はもっと大事なことは、私共が植林した木をですね、放置させられていること自体、疑問を持つんです。保水力云々と言うのなら山を大切にしなければ、安定的な水なんて供給出来ないんです。ダムだって渇水することがあるんです。雨が降らなかつたら。しかし山があれば、湧水がある限りは渇水するなんてことはそんなには無いと私は思うんです。だから先ず山を可愛がってですね、あんな角間から入る不必要な道路を空けて、それが崩落の元になっているような現状こそを改めるべきじゃないか。今あれですよ、砂防ダムだって行って御覧なさ

いよ。もうみんな埋まっちゃって、用材になるような大木がごろごろ転がってたって誰も手を付けませんよ。その倒木がですね、崩落を、崩落を呼んでいるんです。その現状さえも処理出来ない状態でありながら、ダムを作るなんてのは私は無駄であると、そういう事から反対させていただきます。以上です。ありがとうございました。

風間部会長

はい、ありがとうございました。続きまして8番の方お願い致します。

高相美智子公述人

角間川流域の山ノ内町の湯ノ原団地に住んでおります高相美智子と申します。本日このような機会を与えてくださいます、ありがとうございます。今回の検討は星川橋から下流の治水対策になっておりますが、その上流に住んでいる者の意見も聞いていただきたいと思っております。湯ノ原団地は角間橋と星川橋の間、堤防沿いに約250世帯、650人以上の方が住んでおられます。町営住宅もあり、一人暮らしのお年寄りや障害者の方も多く居ります。角間橋上流の堤防が川下に向かって右岸より左岸が大分低くなっております。堤防道路に冠水すれば、そのまま団地に流れ込んでまいります。毎年台風が来る度に轟音と共に濁流が岸近くまで迫るのをいつも不安いっぱい眺めております。一昨年の台風でも1mちょっとという所まで、冠水する所までいきました。水の怖さはそこに住んでいる者にしか判りません。湯ノ原の住民は台風が来る度に川縁にずっと立ってその流れを見つめております。また、湯ノ原団地は前が角間川、後ろが崖で避難路がございません。今回もしダムが中止になるようでしたら、是非とも堤防の嵩上げと高台に避難できるよう、山側に避難路を必ず設けていただきたいと思っております。また、山ノ内町から中野市にかけて、夜間瀬川河川敷には県の事業として公園化がされました。川の中にも水と親しむためにいろいろと工夫がされております。これはダムの建設が前提でされたものだと私は思っております。安定した水量が保てなければ、洪水によって、これら多額の費用を使っての公園は全部駄目になってしまいます。山ノ内町は観光の町です。観光によって命を繋いでいる町でございます。夜間瀬川は温泉地のシンボルであり、観光資源でもございます。夏にはこの夜間瀬川で田中知事もメッセージを送ってくださった長期イベントも開催されております。いつも安定した流れが美しい景観を作ってくれるものと思っております。出来る限り景観に配慮したものにしていただければと思っております。利水に関しては幾つかの案が示されておりましたが、資料を見る限り地下水(井戸)によるものは、費用、そして水質共に大変不安でございます。水は命を繋ぐもの、是非安心して使えるものにしていただきたい事を付け加え、私の意見としますが、重ねて先程申しましたように、角間橋上流もしっかり検討の、委員会の意見に取り上げていただきたいと思っております。以上でございます。よろしくお願い致します。

風間部会長

ありがとうございました。引き続き9番の方お願い致します。

武田重治公述人

私は中野市竹原に住んでおります武田重治と申します。林檎と葡萄を中心に農業を営んで

おります。八ヶ郷と三分一に水利権を持っております。水利権を持っている畑は畑灌に入っておりますので、川に頼っておりますけれども、現在のところ農業用水と言いますか、水についてはほぼ満足しています。農業用水の面に絞って意見を述べさせていただきます。農業用水については今申しましたようにほぼ満足しておりますが、先人、そして先輩方の努力に深く感謝をしているところです。夏の早魃時にも一定の水量があって、差し迫って困っているということはありません。で、問題になっているダムですけれど、ダム建設の場合は、現在の慣行水利権が変更になることが指摘されてまして、権利関係がいずれにしても文章化されます。このことから農家の間では次の二つの事が心配されております。一つ目は農家がいくら現状で満足していると言っても、多目的ダムということで安定供給が出来るんだ、だから受益者だということで、建設費、あるいは維持管理費について応分の負担をしるということで、金の拠出を今後求められることがあるのではないかと。当面タダだとしても将来どうなのかという心配があります。要望していないものに金は出したいくない。それでまた、農家経済の現状は水利費の増加に耐えられるようなものではございません。二つ目はダムの機能の持続性の問題です。果たしてダムは恒久的水源といえるのかどうか。想定以上のスピードで土砂が堆積し埋没してしまう例が多数あります。角間ダムについても、10年、20年という短期間に土砂の堆積が無視できないレベルまで達することも否定できません。この場合、洪水の危険という事もあります。利水の面でも水不足になることが心配されます。ダムに頼りすぎ、他の水源の保守、確保の努力が十分になされなければ水不足はより早い時期に現実のものとなります。浚渫するのか廃泥するのか、あるいは新たな水源を求めるのか、いずれにしても困難が伴います。ダム建設に加えて更なる財政的負担は非常に厳しい。手っ取り早い手段として農業用水の削減の圧力が強まるのではないかと、そういう不安が農家の中に根強くあります。以上、夜間瀬川水系から農業用水の恩恵を受けている農家の立場から、ダム建設に伴う不安を申し上げましたが、不安を抱えたままのダム建設よりも、ダムによらない治水・利水対策を是非お願いしたいというのが私の意見です。最後に付け加えておきたいことがございます。現在、農業は非常に厳しい状態です。農地を宅地化して人口を増やすことが、即地域の発展だという考え方も根強くございます。しかし、世界的にはこの21世紀は食糧問題の世紀ともいわれ、何が起きるか判りません。輸入食糧が高騰し、突如として国内農業の重要性がクローズアップされるということも十分に考えられます。農業についても広い視野・長期的視野で見ていただきたい。農業の維持・発展に水は不可欠です。遊休農地も水があれば復活できます。また、農業用水は農地に入らず無駄に流れているように見えても、環境の維持、それから景観に重要な役割を果たしております。将来の、それこそよく出てくる100年後の世代のためにも農業用の水路と水の流れは極力維持していくべきだと思います。ダムを作る、作らないに関わらず、安易な農業用水の転用はしないように、是非ともお願い致します。水道水源については、自然に対して大規模な改変を加えることの危険や、将来の地域産業の発展方向を極端に固定してしまうような、そういう危険を避けて考えていただきたいと思います。ダムとか一ヶ所から汲み上げて済むような大きな能力の井戸ではなく、複数の井戸など幾つかの水源に分散させることが、水道、水需要増加の不確定さに対する財政的柔軟性というような面からも重要だと思います。以上、農家の立場から申し上げました。よろしく申し上げます。

風間部会長

はい、ありがとうございました。続いて 10 番の方お願い致します。

穠山巖公述人

七瀬の穠山巖です。農業を始めてまだ 2 年目の新米なんですけれど。あの一、私ダムの建設には基本的に反対です。で、今水資源の事たくさん話されましたけれども、結局ダム開発とかね、あるいは減反による、元を質せばですね、水田が無くなって、この地下水が低下するというようなことで水が無くなったという、今までの、我々の営みと言うか、そういうことについて深く反省するべきではないかなということをお先ず冒頭で申し上げたいと思うのです。最大の理由は、反対する理由はですね、コンクリートの構造物であるという事なんです。で、コンクリートの構造物が実際 100 年持つのかどうかと、100 年よりもった例と言うと、第一次世界大戦よりちょっと前にあった、二つか三つくらい日本にあるらしいですけど、それまで殆どまあもたないというようなことが言われているわけなんです。そういう点でね、この例えば作り方によっては、山陽新幹線のように、トンネルだとか高架橋だとか崩落したりね、これはコンクリート構造物なんです。崩落して今大問題になっている。アルカリ骨材反応ということらしいんですけども。で、こういうことは何処でも起こり得る可能性があるという事を、専門家とか学者が指摘しているわけなんです。従って、山間のまあその所にダムを作って、それがこうならない保証っていうのは全く無いんじゃないかなというふうにごう。従って、仮に 100 年もったとして、100 年後には大きな粗大ゴミと言うんですかね、なってしまう。で、決壊すれば今度は物凄い被害をね下流にもたらすというようなことも当然、全く考えられないとは言えないですね。こういう事をやっぱりもう少し慎重に考えていくべきではないかなというふう思うんです。耐用年数 100 年といいましても、その私は生きてるわけではないから、100 年も先にね、するとコンクリートのダムが仮に今出来たとすれば、孫や子供の代に引き継がれていくわけなんです。じゃその時、実際にその先祖はいいお土産を残していったらどうかということ大変疑問なわけ。アメリカではもう 500 ぐらい撤去してるという、インディアンの諺にもあるんですが、それはまあこのね、孫や子供からの贈り物なんだと、自然と言うのはね。従って、私共自然とどういうふう折り合いをつけてね、例えば開発にしても、この河川改修にしてもですね、どのように他の生き物、そういった環境全体との折り合いをどのようにつけるかという事については、もっと真剣に考えるべきなんではないかなというふうにごう思うわけなんです。で、ダムには泥が溜まります。皆さんご覧になった方もいるかと思うんですが、NHKでね、テレビでやりました。黒四ダムの。廃砂ゲートを開けたら黒い汚泥のようなものがずっと黒部の川の所にいて、で、川を汚染してしまう。で、下流には富山湾なんかあるんだけど、私共ホタルイカなんか食べるんだけど、食べれなくなる可能性もある。下手するとね。これ食物連鎖の中でこの、河川の果たしている役割は非常に大きいわけ。従って、またそこに植わっている木なんかもね、非常に大きな役割を果たしている。こういった事やっぱり考えていく必要があるんじゃないでしょうか。私達ちょっと去年ダムサイト上流の砂防ダムなんか見て来たんですけどもね、すごいこの、砂防というのこんなふう盛りがあってね、岩石がごろごろごろしているというようなところを、見物して来ましたが、で、その下にダムサイトがこうあるわけですから、ああいうものが、その場を埋め尽くすかどうかは判らないけれ

ども、流入してしまう可能性と言うのは考えられるんじゃないかなというふうにこう思うんです。で、田中知事が脱ダム宣言をやって、長野のダムの問題というのは今大きな注目を集めてますけれども、世界的には別に田中知事より遥かに先駆けてそういった色々な動きがあるわけですよ。自然との共存をどうやってやっていくかという事を考えていく時にね、この費用の関係だけでは考えられない、もっと大きな責任みたいなものをね、私共にあるんじゃないかなというふうに思うんです。で、今角間川にはカジカが棲んでいるというんですけどね、カジカは水があるから棲んでいるんで、水が無くなれば棲めなくなっちゃう。西大滝ダムからサケが上がってきてどうのこうのと言うのを皆さん知っているのでしょうか。ダムを造るとどういふふうになるかと言うと、ああいうふうになるんですよ。従って、そうゆう中でその、だから水田をもうちょっとあの真剣にね、減反、減反というばかりあれするだとか、あるいは私は農業者ですけど除草剤一切撒かないということで、自分で実施してね、そういったことはやってます。で、亜硝酸塩や窒素だとか、そういったところから生じていくらしいんだけどでもそういう努力もしながらですね、やはり、全体で、もっとあの時間をかけて論議してね、で、焦って節足なく、その事で家訓を残さないように、いうふうにこう思うんです。で、

風間部会長

すいません。時間ですのでそろそろまとめていただきたいと思います。

穂山公述人

やはりあの、自然に工法ということでね、出来る限りやっていただきたいということで、ダムに拠らない治水という事を要求いたします。ありがとうございました。

風間部会長

はい、ありがとうございました。続いて11番の方お願い致します。

宮崎紀一公述人

角間川の地元、穂波温泉から参りました宮崎と申します。私あの自然環境保護の立場からご意見を申し上げたいと思います。結論から申しまして、早急な角間ダム建設に対しては反対でございます。と申しますのは、あの角間川水系と横湯川水系の相違点が歴然としているからでございます。まあ皆様もご存知かと思いますが、春先の雪解け水からの増水期から秋の台風シーズンにかけての両水系の違いがはっきりしていることなんです。と言うことは、あの、降水量の多くなったときに角間川と横湯川が合流する島崎地籍の星川橋で見いただければ水系の違いがはっきりすると思うんですよ。あの少し雨降るだけでもあの横湯川は泥流で真っ赤な水が流れるのが現状です。それに比べて角間川水系は比較的水量が汚れません。ということは、横湯川は大沼池、奥志賀を水源地として流れておるんですが、昭和四十年代から高度成長期から先日の冬季オリンピック開催の間の、結局スキー場開発とか、宿泊施設の開発とか、道路開発とかによる自然破壊、結局森林の伐採、それと伴う動植物等の退化による禿山の出現による自然破壊ですね。それが夏場の夕立等で一定水量が流れ出た場合に、あの污泥が流れるのが、それの方が角間川の方が、角間川水系の混乱よりも重要な問題

であると私は思っております。それに比較して笠ヶ岳、横手山を主な水源地とする角間川水系は今日でも比較的開発が遅れているせいか、環境が割り方整っていると思います。ですから、即ダム建設という事をなく、人工的なその水源地帯の自然環境の保護とか、植林とか、滑落個所の補修工事等で利水・治水対策が十分出来ると私は思っております。ですから、今後10年から15年の期間をおいて、結局自然環境の整備等で、しばらく見ていただいて、その結果によってダム建設云々と言う問題がはじめてあって然るべきだと私は思っております。それに付け加えて今、私の住んでいる所で今問題なのは我々穂波温泉区の取り入れは角間川水系から防火用水、生活用水の水源を取り入れているんでありますけれど、町の皆さんはご存知の通りだと思いますが、あの町の地籍図にははっきりした水路というものが載っておりませんで、私有地を通るために一部の地権者が水が多すぎるということで、取り入れ口の元に行き水をとめてしまうのが現実で、今の温泉区は350世帯もあるのに関わらず防火用水、生活用水の要を為してないのが現実なんです。だから早急なる線引きをお願いし、下流水域の水路整備をお願いしたいと思います。ま、以上です。

風間部会長

はい、ありがとうございました。続いて12番の方お願い致します。

阿藤満政公述人

中野市間山の阿藤と申します。ダム建設に反対する立場で発言をいたします。かつて国土開発の中心的な存在の一つであったダム建設は、近年環境に与える負荷の大きさが指摘されるようになりました。田中知事の「脱ダム宣言」もあって、96年以後昨年8月迄の間に全国で92のダムが建設中止となっています。ダムに拠らない治水・利水は現代社会の主要な流れになっていると思います。さて角間ダム部会、角間川部会でも利水の在り方が大きな議論になっておりますが、この点について、つい先だって2月7日ですが、厚生労働省衛生局水道環境部水道整備課、長い名前ですがこれがホームページです。ね水道政策について「基本的認識(中間とりまとめ)」というのを発表しています。これからの日本の水道政策について重要な柱になると思いますので、ちょっとここで説明させていただきたいと考えております。で、4番目の所に「水道に対する市民参加」という項目がありまして、その下に「水道事業者の説明責任・情報公開」という項目があります。その本文の中で「水道は需要者の負担によって運営される需要者のための施設」であるから「個々の需要者に対し事業計画、料金、水質等十分な説明をし...需要者が直接意見を言うことが出来るような仕組みが必要ではないか」というふうに述べながら、そのイとして水道事業は「節水型社会の形成など需要者の参加がなければ達成し得ない」というふうに提言をしております。まだ中間の取りまとめですので最終結果はこれから出てくるところだと思いますが、大きな流れとしてはそのような方向に水道事業が向っていくだろうと、そういう点では本日の公聴会もその端緒を開くものとして大変期待をしているところでございます。それから今回の角間川の論議を通じてひとつは将来の人口予測、あるいは水需要の予測、それから水源確保の問題、節水、あるいは雨水の利用などの論議が始まっているということに対して私は非常に大きな関心を寄せるものであります。えー、皆でじっくり議論をして納得できる結論を考えていくふうにしたいものだと考えているわけです。人口予想ですが、様々な計算式があるようですけれども、いろいろ

全国的な水予想、人口予想を当たってみますと、少し各コンサルタントや様々な行政団体が過大な見込みをしているのではないかとこのように思われるところがあります。例えば先程の厚労省ですが、12年以降はですね人口、いわば水の需要ですね、水の需要については横ばいです。増えておりません。更に先に行きますとたぶん減るのではないかと思いますけれど、そういう計算を既に厚労省が行なっているということで、やはり中野市及び山ノ内も具体的な水の将来需要についてももう一度考え直していただく必要があるのではないかとこのように思っております。それから水源の問題ですけれども、中野市、山ノ内、それから広域的には豊田村も含めて是非もう一度色々な角度で考えていただければというふうに考えております。当面のところ、先程も風間部会長の方から話がありましたけれど、新幹線のトンネルの水については交渉を進めていただいて、勿論湧水が枯れているという地元の話もありますので、その辺の補償も含めて勧めていただきたいというふうに考えております。また、節水の問題です。例えば滋賀県、琵琶湖という巨大な水瓶を持っておりますけれども、水位低下に非常に悩んでおります。高校生、まあ小学生、中学生まで含めて非常に節水を強くアピールをしております。雨水の利用等々様々なご意見が出ていますけれども、そういった点も真剣に皆で考えていきたいというふうに思います。今後ともご部会の皆様のいっそうのご奮闘をお願いしつつ私の意見といたします。

風間部会長

ありがとうございました。続いて13番の方よろしくお願い致します。

石渡孝男公述人

中野市吉田の石渡孝男と申します。本日公述の機会を与えて下さりまして、大変ありがとうございます。それでは私の意見を若干述べさせていただきたいと思っております。先ずあの、大変総論になるかと思っておりますけれど、先ず安心な水を、安全に飲める水道水として、安定供給して欲しい、それが私の願いでございます。さて、先程の説明によりますと、利水対策としまして、井戸、地下水ですか、により新規水源を確保するという利水案がございましたが、これに対しては反対の立場をとらせていただきます。その理由を若干述べさせていただきます。先ず、地下水を大量に汲み上げる。先程の説明によりますと、今現在汲み上げている量が約毎日1万ト、新規水源にしてまた、約1日1万ト、このような大量な水をまず地下水で汲み上げる、これによりまず地盤の沈下が懸念されるのではないかと、その上に地下水位の低下が予想されると思っております。現在この地下水を利用されている住民の方も大勢おいでになるかと思っております。そして、井戸の周辺の住民の皆さん、この皆さんに大きな損害を与えるのではないかな、このような心配がされるのではないかと思っております。二つ目としまして、現状の井戸水の一部より砒素濃度ですか、基準値を超過していると、また硝酸、亜硝酸性窒素が検出されているというお話も先程されています。浄化装置を付けるというようなお話もされておりますけれど、果たしてこのような浄化措置をされてもほんとに安全な水、安心して飲める水、これを供給していただけるかどうか大変心配しております。三つ目としまして、井戸周辺における油漏れ等の事故、ご存知かと思っております。先月だと思っております、辰野町でもこのような事故が発生しております。これによりまず水道の供給が停止されるのではないかと、また簡易水道、また浄化設備の掃除等もなさると思っております。その間大変市民の生活に不安と

混乱を招くのではないかなと、このように思います。四つ目としましては、地下水は無限の資源では無いのではないのでしょうか。将来枯渇の可能性がたぶんあると思います。その上に大変維持管理等々多額な費用がかかろうかと思えます。それにランニングコストが非常に高くなる懸念がされると思えます。これが我々水道を利用している利用者にですね、水道料金の跳ね返りに響いてくるのではないかと、我々にひっかかって来るのではないかなとこのように思います。以上先程説明がありました井戸水の利用、これに関しては反対の立場をとらせていただきます。

さて、その他に自然の水を大切にしたい。私達地域、この地域は多雪地域でございます。冬期間は多くの降雪がございます。また、梅雨時の長雨、夏・秋にかけての台風等、大変自然が与えてくれた資源がございます。この大切な資源をただただ放流するのではなく、水道水の資源として有効に利用し恒久的に安全で、安心して飲める水道水を、安定供給していただけないだろうかということでございます。最後に治水・利水対策として先程説明がありましたように、河川の河道対策、いろいろな案があるかと思えます。まず洪水災害を防いでいただき、流域住民の安全を保つために、ダム案を含めた中で検討委員会で一番ベストな対策案を立てて検討して欲しい、このようにお願いを申し上げて私の意見の終わりとします。ありがとうございました。

風間部会長

ありがとうございました。続いて14番の方お願い致します。

高相吉郎公述人

山ノ内町の佐野の高相です。時間の関係の方もありますが、私は角間ダムは造るべきである。こういうふうに宣言をいたします。考えております。それでいろいろ問題はあろうかと思えますが、四つばかりまとめてみました。一つはあの角間ダム、横湯川の斜面は大変急であります。それで特に全山林が戦後植えられた大きなものであります。特に角間川は、流域につきましては佐久間象山先生をはじめ、大変佐野の杉は有名だと、こういうような事を仰っておられまして、植林がほんとに盛んでございます。ところが現在、木材の価格が低迷しておりますし、また、山林従業者が大変高齢化しております、山が荒れております。こういうようなことから、夜間瀬川の流域に住む人達が安心して住めることと、何よりも生命財産が守られるということが第一点ではなかろうかと思えます。これにつきましては、先程資料の中にも出ておりますが、30年から50年毎に一回の水害が起きております。こういう事からも是非そういうような災害の無いような川にしたい。それから二つ目が私共一番角間川の上流に北原堰、水利組合、それから佐野水利組合というものを持っておりまして、これの面積がだいたい300町歩ぐらいあるんでございますが、これが今まで田園用水であったものが、町の全体の、町全体の水量が不足したということで生活用水の方に回っております。ということで4月の20日から9月の20日頃まで、果樹地帯でありますし、また水田地帯であります、この一番水の必要な時期に水が無いわけです。どうしても果物というのは水が必要でございます。こういう面からも、是非そういう面でダムの取り組みをお願いをしたいと、こんなふうな事を申し上げたいと思えますし。それから、将来的にあそこには安南平という大きな、しかも志賀高原の中では一番平らな地籍がございます。一時開

発をしておったわけですが、色んな諸条件で現在手を付けられない状況でございます。しかしながらそういうものを見て、将来的にダムが出来ることによって、それらの観光開発、決してあの物を造れということじゃなくて、野性味あふれる、そういう観光開発に出来るのではないかと、こんなことも申し上げまして、時間でございますので、終わりにしたいと思います。大変ありがとうございました。

風間部会長

ありがとうございました。それでは続いて 15 番の方お願い致します。

外山俊公述人

私は山ノ内町に住みます外山と申します。山ノ内町民としてダムに象徴される大型公共事業の在り方に疑問を持ち応募いたしました。基本的には「ダムに拠らない対策案」に賛成の立場から発言をいたします。まず田中知事の「脱ダム宣言」を受け、今回このような検討委員会が開かれ、尚かつこのような公聴会が開催されることは、今後様々な公共事業を進めるにあたり、非常に重要、かつ必要不可欠なことというように思っております。治水対策案の表題に「住民の安全と安心を確保するため、将来の治水・利水対策…」という文言がありますが、これは単に治水・利水のみならず、住民の安心とは環境への負荷は勿論でありますけれども、将来の様々な負担はどうなのか、というのも含むべきだというように思っております。皆さんも既にご存知のように、国、自治体併せて借金が現在 600 兆円とも言われております。利子だけでも 1 時間で 18 億円、こうしている間にもどんどん膨らむ借金、すぐにも 700 兆円になることは素人の私でも予測できます。これは他の例になりますけれども、現在各地で農業集落排水事業を含む下水道工事が行なわれております。この農業集落排水事業、いわゆる「農集」計画で見ると、地域で若干の違いはありますが、供用開始から 50 年、60 年と返済をし続けなければなりません。しかし施設の寿命は 40 年くらいと言われております。つまり施設は返済半ばで寿命になり、修理をしなければ使えない、借金は減るところか増え続け、末代まで負担を余儀なくされる結果になるのです。では環境にも、次世代にも負荷の少ない方法がないかといえば他にも合併処理槽という方法もあるのです。今、全国の 9 割もの自治体で、広域による下水道経営が赤字になり、結果一般会計から補填し、他の財政を圧迫しているのが現状です。既に東京都国分寺市のように住宅密集地でありながら下水道で財政破綻寸前の自治体さえ生まれています。とはいえ、公共事業とは赤字黒字で判断されるものではないことは周知の通りです。しかし財政再建が国はもとより、地方自治体まで声高に叫ばれる中、大規模な公共事業は将来に費用の負担という新たな不安を課すことになるのです。土建国家といわれて久しいですが、もう大規模な公共事業は将来に様々な負担を押し付けるだけです。世界的に脱ダムは趨勢です。ダムに拠らない治水・利水を考えてこそ、人の歩むべき道です。自然を支配しようという考えを改め、自然と共存する道を模索すべきだと思います。最後に改めて、未来に責任を持てる計画をすべきで、現代社会が犯してきた様々な過ちを繰り返さないためにも「ダムに拠らない対策案」に賛成をいたします。以上です。

風間部会長

ありがとうございました。それではもうひと方で休憩をさせていただきたいと思います。

引き続き 16 番の方よろしくお願い致します。

土屋信行公述人

山ノ内町から来ました土屋と申します。私はダムに抛らない代替案というのに賛成をする立場から発言をさせていただきます。理由はいろいろあるんですけども、山ノ内町の利水に絞って発言をさせていただきます。山ノ内の利水についてですが、資料によりますと一日当たり 13,880m³ が 15,330m³ に、そして給水人口が 13,950 人から 14,800 人に増加するとあります。私は専門化ではないので判らないんですけども、どうもこのように増えていくとは思えません。で、この資料には理由が三つ書いてあります。観光客の入り込み数の回復・増加、そして定住人口の流出抑制、下水普及です。ひとつ目の観光客の入り込み数の回復・増加とありますけれども、これは山ノ内の町民としてはけして喜ばしいことでは無いんですが、どうもこうなるとは思えません。残念ながら経済状況は長期停滞の様相にありますし、スキー人口は減っている、そして旅館をよく利用してくださるいわゆる老年期の皆さんは年金削減や、後利息利子収入の減ということでなかなか温泉に来れない状況が続いております。それから修学旅行も今、少子化で、数そのものも減っていますし、来てくれるところも段々人数が減ってきているということです。仕事柄よく旅館やホテルの方とお話する機会が多いんですけども、経営的にも非常に厳しいですし、また、老朽化しているわりには固定資産税が非常に高かったり、それから後継者に恵まれないと、むしろ経営されている方がお子さんに継がせながらないというようなこともあって、なかなか厳しい状況にあります。そして更に今市町村合併が話題になっております。何処と合併するか、あるいは合併しないのか判りませんが、合併でいわゆる「周辺地域」という事になれば、役場にいる職員の皆さんの数も減るでしょうし、そうなれば観光に対しても対策が薄くなって、観光客の回復・増加がますます見込めなくなるのではないかとこのように思います。2 番目に定住人口の流出抑制ということですが、先程の方も発言されてましたけれども、2 万人いた人口が 1 万 6 千人を割ってしまったと、北信口ーカルかなんかに流出の一要因として観光産業に従事する従業員とその家族が減ったのが大きいというようなことが書かれていた事を記憶しているんですけども、もしそれがその原因でしたら、今後もこの傾向は続くのではないかと。それから私個人的には小さい子供いるわけですけども、子供が山ノ内から、例えば高校に入ってますね、長野あたりに通うというのは、非常に大変です。私子供の頃は街中で育っていますので、あんまりそういう苦勞はしないで来たんですけども、やはり長野電鉄は本数が非常に少ない上に、更に減っていく傾向にあります。中野から長野に行くまでも片道、大人で 880 円かかります。湯田中から長野まででは片道 1,130 円かかります。で、それが定期代に跳ね返ってくるということは非常に大変なことです。その上更に木島線に続き、湯田中線もその内廃止になるのではないかとこのように思います。そうすると当然行く高校の範囲も限られてきます。木島線沿線沿いの方は須坂の高校までが限度という話を聞きます。そうしますと若者、というか子供を育てる者の意識としては山ノ内から中野、中野から長野の方へ行こうかという意識になります。最後に下水の普及なんですけれども、確かに下水が普及すれば水の量は必要になるかもしれませんが、老年者のみの世帯で数十万の負担が出来るのかどうか、そこまでしていかないという声も聞きます。以上この三つから、私はこの必要な給水量は過大ではないかという意見を述べさせていただきます。以上です。

風間部会長

はい、ありがとうございました。それではこれで 15 分間の休憩をさせていただきたいと思
います。

田中治水・利水検討室長

再開いたしますので部会長よろしくお願い致します。

風間部会長

それでは公述を再開いたします。次に 17 番の方よろしくお願い致します。

林政人公述人

中野市中央に住んでおります林政人と申します。自然との共生の大切さから、ダム案に反
対の立場から述べさせていただきたいと思えます。夜間瀬川水系を歩いたり、あるいは昨年
の 11 月、ダムサイトから上流に向って歩いてみますと非常に大きな自然の破壊といえますか、
感じまして、ますますダム建設に危惧を私は持ちました。オランダのデレーケーという人が
日本の川を見てこれは滝だと、私は改めてそれを聞いてですね、本当に滝だという感じを私
は受けました。ダムが出来ますと、アメリカの、アメリカでは耐用年数がだいたい、ダムが
埋没してしまう耐用年数が 50 年と言われているんですけど、日本は 20 年、よくて 50 年と言
われております。非常に近くに、居住地域の近くにダムが建設される予定になっておりまし
て、まあ喩えてみれば、頭上に大きなダムの水桶を住民が抱えるということになると思うん
です。で、絶対安全な、絶対そういう災害に耐える、そういうダムを造られるという、そう
いう自信を持ったお答えがあるかもしれませんけれども、自然の驚異の前に人間は果たして
立塞がる事が出来るかどうか。例えば地震と言うことがありますね。地震が起こった時に
どうだろうか、それから何しろ、あの急峻な谷をですね、岩石の堆積って言うんですかね、
堆積が始まります。ダムが出来て貯留が始まると同時に、その堆積が始まると思えます。で
この浚渫費用、除去費用が膨大なものになると思えます。ある筋から聞きましたら年間 2 千
万、2 千万で果たして利くかどうか、なんとも言えません。これは推計ですから。更にそれ
が崩壊したり、あるいは溢れ出て流木や土砂が夜間瀬川に流れ込んでいったら、これはもう
大変なことになると思えます。過去に昭和 25 年から戦後 7 回も洪水があると、この資料で見
ることが出来ます。しかしこの洪水によってですね、どのような所がウィークポイント
だったか、どうすればそれを免れることができるかという人間の知恵というものも、同時に
そこに集められてきたと思えます。で、今回いろいろ案がありますけれども、河床の掘削だ
とか、あるいはパラベットの工法とか、いろいろありますが、これはある意味では見本とい
うか、川の流れと人間の居住生活圏って言うんですかね、これが一緒になっていく宿命と言
いますか、そういうものがありますが、ただ住民に大きな被害を与えていることが連続的に
起こるといことは、これは全く考えなければいけないことですが、昭和 25 年からの、まあ
25 年が一番大きな災害だったんですが、それ以降ですね、いろいろ我々に教訓を与えてきた
と思うんです。そういったものを含めてですね、川の流れ、自然の共生を考えながら、なん
て言うんですかね、そういう洪水が住民に与える影響を極力少なくする、叡智をですね集め

て造っていく必要があるのではないかと私は思うんです。更にダムが出来ますと、ダムから大きな、なんて言うんですかね、化合物が流れて自然、生態系に大きな影響を及ぼすということも考えられます。利水対策ですけれども、人口増の世代を終わって、いわゆるバブル経済が落ちてですね、段々、段々今それが減少期に入っております。ですからそういう減少期ですから、急激に井戸をどれくらい掘削するとかということは私はないと思うんです。ですからその辺のところを考えながら持続的にですね、手の届くところから作業をはじめていくのが必要であり、一方また住民サイドも水の大切さとか節水等に関心を深めていくと。要するにあの中野市ではゴミとそれから資源の分別の事をやっていますが、そういったことを市が、それが水道部になるか判りませんが、どんどんどんどんこの新しい情報をですね出していただいて、そして住民の意識改革を公報活動でやっていただきたいと思います。私は、

風間部会長

すみません。時間ですのでまとめていただきたいと思います。

林公述人

重要だと思いますので、その辺を頭におきながらこれから長い年月我々だけの時代ではありませんので、そんなことを考えながら、事を進めていって欲しいと思います。ちょっと長くなりましたがこれで終りたいと思います。

風間部会長

ありがとうございました。あの皆様方をお願いでございますが、なるべく時間は厳守していただきますようよろしくお願いを申します。それでは引き続き 18 番の方お願いいたします。

下田真寿公述人

私は夜間瀬川の中流から下流に分かれる辺、その左岸側にあります中野市竹原に生まれ、住んでおります下田真寿でございます。よろしくお願い致します。私は終戦の年に小学校に入学いたしました。その頃から夜間瀬川につきましてはいろいろと記憶がございます。まあ梅雨の時期、あるいは台風のシーズンになりますと濁流の洪水が、鉄砲水のように押し寄せて、堤防の護岸にぶつかりまして、護岸を破壊する凄まじい力というものを目の当たりに見てございます。また、夏の湧水期になりますと夜間瀬橋から下流、あそこに八ヶ郷の堰がございますが、そこから下流につきましてはまるっきり水の無い川、まあちょっと異様な光景であります。そんなような記憶がございます。また、住宅は私は夜間瀬川の下流 100m、堤防までも約 100m の位置に現在住んでおりまして、そんなことから小さい頃の記憶で夜間瀬川の洪水というものは非常に恐ろしいという先入観がございます。そんなことで今も洪水が出る度に夜間瀬川に出て洪水の状況を見ております。まあ見ますと昼間の場合は良く見えますけれど、夜になりますとよく見えませんので、サーチライト方式の乾電池を自分なりに購入しまして、それで照らして見てみたりしています。こんなことからしまして今回検討委員の方で出されましたダム無し案の治水対策についてご意見をさせていただきたいと思っております。まず土砂の混入率が 5% とございますが、とても私こうやって見ている以上 5% ということは

とても考えられません。また、中・下流域におきましては河積内の土砂が非常に音を立てて流れているとゆうような状況でございます。それからダム無し案の毎秒 130m³増加するというところでございますが、これを堤防を破壊するエネルギーに換算するとどのくらいになるのか、その辺が十分に検討されていないというような状況かと思われま。それから夜間瀬川は非常に急流河川で、階段状に今床固工が設置されているわけですし、それが洪水の時に波状状況、波を打つような状況、転流と言いますかね、そんなような状況で異常な勢いで流れるという状況が見受けられます。それから近年全国各地で異常気象によりまして局地的な集中豪雨が発生しております。それらについては一体どうなっているのかということを含みまして現在県から出されておりますダム無し案の、単なる河川がキャパシティーがあればいいという、洪水に対するキャパシティーがあればいいという、そういった観点では私はダメなんじゃないかなとそんなふうに考えている次第でございます。次に利水対策でございますが、地下水源の、水道水源の地下水でございますが、硝酸であるとかいろんな有害物質が入っているようでございます。また、表流水にいたしましても、温泉水が入ったりしておりまして、砒素も入っているというような状況で、たぶんこれを浄化されるということは薬液による凝集沈殿による除去じゃないかとそんなふうに考えているわけでございます。これが私共長年、その水を摂取することによって健康的に果たしていいんだろうか、その辺が疑問でございます。それと水道的な確保から言いましても地下水ではちょっと難しくて他の長野市であるとか、須坂市であるとかその他の都市におきましてもそうでありますがダムを造ったりして取水している状況でございます。そんな事から鑑みまして、治水面、あるいは利水面から考えまして私はダムの必要性を考えています。以上でございます。よろしくお願ひします。

風間部会長

ありがとうございました。引き続き 19 番の方よろしくお願ひいたします。

若林孝子公述人

私は中野市壁田から来た若林孝子です。ダム賛成の立場で意見を述べさせていただきます。この公聴会に出てみないかというお誘いをいただいた時、まわりに人達に今飲んでる水がどこから取られてきているか知っているかと聞きましたら、殆どの方が答えが返ってきませんでした。はっきり答えが返ってきたのは本当に少数の人でした。家まで水が来ていれば、その水がどこから取られて、どのようにして家まで来ているかを知る必要が無いという人が殆どではないかと思ひます。今の世の中、蛇口をひねれば水が出る、それが当たり前になっています。水と空気は無制限にある、いや、あって当たり前だと思う人がいかに多いか私はこの時初めて知りました。私は中野市の水源の一つである古牧地区にも住んでおります。千曲川の伏流水を取り田麦の浄水場に送っております。この水は鉄分が多く、市内で一番美味しくない水と言われております。時々消毒した真っ白な水が出てくる時があるんです。美味しい水が飲みたいからと言って、名水と名の付く湧き水にペットボトルを持ち、味が違うと言ってせっせと通っている人達がいま。でもこの水も無制限にあるわけではなく、これは井戸水でも同じと思ひます。昨年の七瀬地区が良い例ではないでしょうか。水が出て水質が悪ければダメ、湧き水も井戸水も枯れることもあるのです。私は数年前、一日水道課長をやらせていただきました。その時水を取り、人の口に入るまでに、多くのお金と人の手と機

械を使っている事を知りました。この事業を進めていく上で本当に大変だなという事をその時初めて知りました。今中野市は下水道が普及してきています。ご多分に漏れず私の地区も農業集落排水事業が5年前よりスタートしました。区の加入率は3年前に100%になりました。区の中に流れる小川も、上流の下水道があることにより目に見えて綺麗になりました。よかったねと言う声が聞こえてきます。良い事だと思います。でも普及率を見れば全市を見ればまだまだ伸びていきます。そうすれば水の量も増えるでしょう。もし水が来なかったらと考えると少々怖くなります。人間は文化的な生活にはすぐに慣れますが、その逆はなかなかです。知事の脱ダム宣言により、水について考えるよい機会になりました。私は思います。安全な水を必要量供給するのは、県を含めた行政の責任ではないでしょうか。それがダムからなのか、それ以外からなのかは私にはよく判りませんが、コンクリートダムを造るのがダメなら、こんなダムを造れば自然破壊にならないんだよと、日本全国に発信できるようなダムを、その道のプロの方に考えていただき是非角間川にも造っていただきたいと思います。未来の人々に安心な美味しい水を必要量残してあげられる、それは行政の責任であり義務ではないでしょうか。最後に水は無限ではない、使う人一人一人が節水について考え行動しなければならぬと思います。私を含めてですが、でももっと大事なことは、今の子供達に小さい時からそれをしっかり教えていかなければならないと思います。小学校4年生の私の子供は去年市の施設見学でいろいろな所を回りました。その時に水道関係の所は一つも入っていませんでした。是非今年からは入れて欲しいと思います。もう少し小さい子供には生活科もあります。その時、その年代に判るように水の大切さを学校も家庭も協力して教えていった方がよいと思います。何年前かにこんな話を聞きました。高校生の間で朝シャンが流行ったときは水道料金がすごく上がった。そんな事が話題になりましたが、今は少し減ってきたということです。整いませんけれどこれで私の意見とさせていただきます。ありがとうございました。

風間部会長

ありがとうございました。続いて20番の方お願いいたします。

松本裕子公述人

私は中央2丁目に住んでおります松本裕子と申します。今日はこのような機会を与えていただきましてありがとうございました。先月実家の新年会があり、やはりいつものメンバーで角間ダムについて議論いたしました。今日はその時の意見をまとめてみましたので、述べさせていただきます。角間ダムには三つの大きな目的があるということを知りました。その中の一つに洪水調節があります。これはとても重要なことの一つだと思います。「脱ダム」によって葬り去られますと、社会資本、いわゆる社会福祉施設や、学校、文化施設、道路等がどんなに立派に整備されたとして、一度大きな洪水に見舞われますと、これら全てが水の泡になってしまいます。私は昭和33年の時、小学校6年生でしたが、夜間瀬川が金井地籍で氾濫し、大災害となりました。濁流が壁田の内川周辺を流れ下り、大きな屋根が流れていく状況を震えながら見ておりました。我が家の田圃や畑も砂や泥の下になってしまいました。その時は稲の収穫期でもありましたので、稲刈りは砂の中から、ひと株、ひと株を掘出しながらの作業でそれはそれは大変でした。また、それから1年間は砂混じりのご飯を食べた事を

昨日のこのように思い出されます。その濁流となった場所には、現在団地が出来、また、県の北信地方事務所も出来ました。段々当時の事を知る人も少なくなってきました。今でもあのときの事を考えると恐ろしさが甦ってきます。中野を中心としたこの地域は、古来から洪水被害に見舞われ、多くの先人達が苦しんできた記録があります。その一つに「黒姫物語」の伝説があります。また、西江部の伊勢神社に代官様が神様として祀られているという話があります。今から約260年前のことですが、この地域に大雨が降り続き、夜間瀬川が氾濫、平野村でも大洪水に見舞われました。田畑が土砂で埋まり、大きな被害を受けました。水田だった田圃は畑にしかなくなりしました。そこで農民は畑になってしまった水田を、年貢の低い畑に変えて欲しいと願い出るのですが、どの代官の時も認められず、やっと大草太郎左右衛門代官によって願いは叶えられました。村人はこの大草代官を讃え、その徳を長く伝えようとここに神様として祀ったのです。76年の悲願だったそうです。黒姫伝説から時が流れ、農民の願いは代官様を動かすことに代わっていったのです。このように幕府から命じられ着任した代官によって、地域の政治が大きく左右するということも判ります。ダムの目的の二つ目に水道水の確保が挙げられます。中野市は将来に向けて、美味しく、安心して、十分な水の確保が約束されているのでしょうか。最近知ったことですが、「田麦用水」や「笠原用水」は夜間瀬川から取水しているものの、水利権は一つ向こうの川である笹川という川にあるのだそうです。私は一主婦として家庭に、是非とも美味しく飲んで、安心の出来る水の確保をお願いしたいのです。三つめの目的には河川環境の保全があります。最近の子供達は川へ遊びに行き魚を採ったり、泳いだりして遊ばなくなりました。勉強、勉強と子供達を取り巻く環境が変わってしまったといえればそれまでですが、今また、アウトドアも大切と、各地域の育成会などでは力を入れております。夏休みには夜間瀬川で遊んでいる姿を目にします。しかし、真夏の日照の時期には殆ど水が無くなり、魚が棲めない、植物さえも生育できない状態となるのです。そんな事から田畑に水も引けず、昔から水の争いが絶えなかったのでしょうか。以上、ダムの目的にある「洪水調節」「利水」「河川環境」についてお話してきました。ここで特に皆様にお伝えしたいのは「脱ダム宣言」により多くの市民の生命、財産、そして環境の保全が果たされなくなってしまったということです。私はこれらの目的の一つである洪水調節は今までの河川改修や、砂防事業でも可能であると思っております。災害は忘れた頃にやってくると言います。今後ともこの地域の安全を守る為に、これまでの水害の教訓を踏まえ、大きな洪水に対処できるような、治水計画を進めて欲しいと思っております。川の環境を守る責任は誰にあるのでしょうか。水道の水を確保する責任は誰にあるのでしょうか。そこで、中野市長さん、山ノ内町長さんをお願いしたいんです。河川の管理者である長野県知事さんと力を合わせ、日本中にはまだ一つも無いかもしれない、環境のためのダムを造っていただきたいと思うのであります。これからは環境の為にダムを造らなければならない時代が必ず来ると思うのです。時間がありませんので途中でですけどこれで終らせていただきたいと思えます。

風間部会長

はい、ありがとうございました。続きまして21番の方お願いいたします。

青木豊一公述人

私は中野市東吉田の青木豊一でございます。ダム無し案を積極的に支持する立場から公述をいたします。脱ダム宣言は21世紀に人間の理性を最大限に生かす、公共事業在り方の再検討、人間と自然が地球環境が、共存共栄し、自然と環境の循環を計る画期的宣言です。だから圧倒的県民が宣言に共感と支持を寄せてます。私は次の点で支持いたします。ひとつ、脱ダム、ダム無しによる市民の水確保は可能です。パブル期の一日最高水量は18,775m³です。市水道科が平成12年12月水道市議会提出資料の人口予想は平成12年度から26年度までの14年間で中野市の給水人口は85人、給水量は年平均0.2%増と見込みました。この資料で計算すると1日平均給水量は1万5千m³弱、また、年間降水量1万8千m³で済みます。具体案の中野市最大給水量の23,234m³は政策的視点が強く感じられます。2、地下水の改善で安定的水の確保は可能です。水道水源の地下水が悪いのではなく、むしろ表流水、伏流水が基準を越し、地下水が汚染基準を越すのと基準以下が半々です。また、使用することで汚染も減少する傾向にあります。地下水の汚染原因の究明を避けて、問題解決は出来ません。原因が判ってこそ改善策が可能です。ところが一部のダムが必要と唱える人は、汚染や災害の減少面の強調で、原因の科学的究明、再発防止にどれだけ努められているのでしょうか。脱ダム宣言は人間と自然環境の循環を正常に戻す。安全で住みよい郷土作りや安全で美味しい水の確保を図ろうとするものです。尚、より安全で美味しい水確保のため新幹線の湧水活用、新たな必要な施設の掘削、必要な施設の改善等積極的に取り組むのが当然です。3、福岡県は雨水利用やお風呂の排水利用で1日220戸から140戸節水に成功しております。この経験を学び雨水利用等による節水を促進すれば水需要の改善や保守災害防止、環境にやさしい循環型の地域作りが図られます。また、地域の経済効果はダム無し案がより効果的だと考えます。次に部会課題の問題点と、再検討課題を提起します。1、角間ダム調査時点で地質、安全、漏水対策等が指摘されました。この検討や工事費等の検討経過と結果が不明です。明確化を求めます。2、将来の水需要計画が市水道市議会資料と、県食品水道課資料との誤差原因と整合性の検討を求めます。3、ダム無し案の経費が実際とかけ離れ、過大すぎます。中野市が平成以後、7年以後、井戸水、深井戸と浅井戸各2ヶ所、合計4ヶ所掘り、事業費は1億8千万円、1ヶ所平均4,500万円です。案では1ヶ所1億円と2倍強、しかも井戸の耐用年数も案は1ヶ所10年、10回掘る計画です。中野市の昭和年代に発掘した井戸で全て40年を経過し、現在稼働中です。また、案は除去施設を全井戸に設置するなど実態に合いません。4、ダム無し案の場合の事業費削減分、約100億円と、100年の維持管理費に、更に堆砂除去費用など県の削減分を水道利用者負担減に回すことが可能です。そうすれば住民負担の大幅軽減が可能です。最後に圧倒的住民が強く願っている脱ダム宣言の具体化を進め21世紀型人間と自然環境の息づく循環関係を、この長野県、山ノ内、中野市から発信し、先輩が残したかけがえのない世界に誇る自然と環境を時代を担う子孫に引き継ぎ、この資源を活かした街作りのモデル構築を、創意を發揮し協力して積極的に進ませようではありませんか。以上で公述といたします。ありがとうございます。

風間部会長

はい、ありがとうございました。続いて22番の方お願いいたします。

頓所昭司公述人

中野市の小田中、頓所昭司と申します。私は八ヶ郷土地改良区の役員という立場から利水についてダム案が妥当であると思います。八ヶ郷土地改良区は昭和 59 年の県当局立会いの協定書以来、中野市へ 1 万 m³、山ノ内町へ 3,000 m³ の水道用水を割愛することにつきまして、組合員の合意を得るために大変な苦勞を重ねてきました。そのために 2 回にわたり総代会の検討をいたしました。その結果現在の表流水を割愛することは出来ない。角間ダムを建設して、その貯留した水を割愛することはやむを得ないという結論が出たわけです。皆さんもご存知の通り、八ヶ郷土地改良区の水利権及び沿革につきましては、八ヶ郷水利史を通じて検討委員会の皆さん方の中で熟慮されたことと思いますので省略をいたします。10 回目の検討委員会を重ねる中でダム無し利水ではダム案に比較して 100 年計算の中では 3 倍から 10 倍の費用が必要とされています。行政の中では水道会計は企業会計でございまして、両町市、市民、そしてまた町民への水道料への負担増も心配をされるところでございます。地下水は不安定要素があり、ポンプアップは莫大な電気料も大きな負担の原因になります。そこで扇状地という地形を生かしたダム案が望ましいと思います。加えて高速交通時代を迎えて、農業形態も大きな変化をしつつあり、施設農業への転換の中では、水の需要は益々増大します。水田の水は川に戻ります。しかし畑の水は川へは戻りません。しかも中野市の場合には市街地、またその周辺において、砒素、テトラクロロエチレン、硝酸性窒素、亜硝酸性窒素が井戸から検出されており、水道水として毎日強制的に汲み上げる場合には、更にその周辺から引き寄せる可能性もあり、大変心配をし、疑問に思います。

中野市の水道水源の問題については、過去から種々検討されてまいりました。ダム案は安定した水の確保と、良質な水の確保をするため、角間川からの取水には新たな開発による利水権の確保しかないとの結論によって、夜間瀬川総合開発事業促進期成同盟会では強力な運動をしてきたものであります。代替案の地下水は安定性を欠くもので、現状取水している地下水への影響も考慮に入れておかなければなりません。この計画では、地下水源が集中する傾向にあり、更に消雪用の井戸も集中していることから、将来枯渇の心配がされております。現に現在使用中の消雪用の井戸も枯渇の傾向があると聞いております。山ノ内との公共下水道、終末処理水の放流に関する覚書にある希釈水の確保について県はどのように考えておられるのか。この計画では下流からの取水になっており、この約束が守られなければ行政不信にもつながるわけでございます。表流水は砒素が超過している現状の中で、砒素は毒物であり、毎日飲む水道水に混入していること自体、市民の健康維持の観点からも望ましいことではございません。出来る限り砒素の無い水源を上流から求める必要があります。これらの事から総合判断すると、ダムに頼るしかないと考えられます。結論として、早期のダム建設を要望し、私の意見といたします。終わります。

風間部会長

ありがとうございました。引き続き 23 番の方お願いいたします。

稲葉武治公述人

中野の牧ノ入から来ました稲葉武治です。私はダムを造るという形ではなくして、ダム無しの方向を求めたいと思います。このダムの問題が出てきてから、私もダムの現状、それからその上の崩落地、いろいろ歩いてみました。ダムのその上にあります貝鐘の砂防堰堤は出

来てから 20 数年と言われておりますが、満杯で、水がその上をチョロチョロ流れているというような状態です。角間川の上流は急峻でありますので、ダムを造ってきちんと整備をしても底知れぬ恐怖を感じます。と言うのは、今年も、去年も私がダムの予定地より上に行った所では大きな崩落がございまして、何十 m³ というような大きな岩がごろごろしていました。で、川の水の流れも変わってありました。そういうことから考えるとダムを造る前にもっと私達がやらなければならないことがあるんじゃないでしょうか。緑のダム作りというのが提起をされています。これは戦後植林をして杉の木を植えたという形で先程も言われましたけれども、この杉やヒノキ、いわゆる針葉樹では保水力が落ちます。広葉樹を植え、根をはらして崩落を防ぐというダムが必要になってきます。そして山をきちんと整備をするということが先ず大事ではないでしょうか。私はこういうことをやってこそ、ダムを造っても埋まってこないということになると思います。それを先にやらずにおいて、ダムさえ造れば水が確保出来る、そんなものではないです。ダムを造る前に本当に山が水を保つことが出来るかどうかという、そういうものを作る必要があると思います。この砂防ダムを造るために道路がひかれています。その道路を作るというために、川の流れが変わったり、そしてどんどん岩が川に流れて落ちてきます。そういうことから考えると砂防ダムを造っただけでも、山が変わってくる状態が生まれてきています。これは多くの委員の人達も場所を見学されたと思いますけれども、そのような状態があちこちで出来ています。まだ崩落も続いています。そういうことから考えますと、この崩落を無くすることが先ず第一ではないか。で、二つ目は利水の関係です。先程から聞いていますと、利水をすれば必ずうまい水が飲めるんだと、そして金もかからないのだ、ダムを造ると金もかからないと言われますけれども、今考えてこの資料を見ますと、年々給水人口も減ってくるし、給水力も減ってくる。2000...、平成 32 年にはもっと下がってくるという、この報告がここに載っております。中野市の場合でも 4,300 という形になっておりますので、そういうことから考えてみますと、わざわざ利水で井戸を掘れば金がかかるよ、ダムさえやればいいという考え方を如何にも宣伝するような形で報告がされていますので、この辺はやはりもっとしっかりした資料を付けて報告していただきたいと思います。以上です。

風間部会長

はい、ありがとうございました。続いて 24 番の方お願いいたします。

町田郁世公述人

私は中野市吉田で農業経営をしている町田郁世と申します。今回水問題、角間ダムに関しての、ことについての私の意見を申し述べたいと思います。先ずなんとしても私共人間が生きるため、生活するためには水が無ければ生きていくことが出来ないということは、皆さん既にご承知の事でございますが、この今問題になっている角間川水系を見るに、この私達の先人が生命をかけて、そしてまた財産を投げ打って、あの横手山の裏の群馬県に行く水を明治の時代に権利を得て、こちらに引水をし、対策してきたと、こういうことが現実に昔の人がやってくれたわけです。私共今、山ノ内、中野住民が農業用水として使い、そしてまた生活用水として。農業用水とすれば、今水田は若干転作で減っておりますけれども、私は少し下流におりますものですから、決して水がですね、一年の内で必ず渇水する時が、前々の人

がお話ありがとうございましたけれどもあります。もうこの時には水田の中が割れてしまう。そんな状況すら一年の内に、やっぱし何回か出てきます。畑の水も当然必要でございますし、これが無ければ農作物は出来ません。更にまた人間の生活用水として水需要が、特に下水道がこれからまた更に進めて行政ではいかれておりますけれども、水需要は多くなる一方でございます。そういうことの中で、是非年中安定した水が、この角間川を通じて夜間瀬川に入り地域の住民に供給をしていただきたい。農業用水を含め更にまた水道用水に。これがダムを造ることによって平均に水が供給できる。これは雨が降った時とか、雪解けの時には水が多ければそれが下に流れて行きましょう。しかし、この水を下に流して千曲川から日本海へただやるといっても、大事なこの無制限にある水資源じゃございませんので、是非ダムによって蓄えてやっていくということが重要ではないかと思えます。尚また、この水の足りない分につきましては、1万3千m³日量、こういう数字が出されておりますけれども、地下水、井戸水という話、いろいろの人からございましたが、私は実は大変地下水の多く出る所に、実は住んでおります。70年その水の状況をいろいろと小さい時から見ておりますが、地下水は全くこの当てにならないというか、10年経つと井戸を掘っても、水の水系が変わってきます。で、15年、20年これくらい経つと水が無くなってしまいます。こういう状況が現実には私は見ており、これでは井戸水をあてにするということは如何なものであろうかなというようなふうにするわけでございます。そういうことからいたしまして、何としてもやっぱし、この志賀高原の雄大な、素晴らしい水をきちんとダムによって確保し、そしてこれからの若い世代、100年の大計でございます。子供達が安心して水を、水資源を受けて生活していくことが出来るようにというふうに思っているところでございます。それから少し具体的に、夜間瀬川からの取水は洪水時には異常な土砂が流出するので、この水を確保するのに大変難しゅうございます。井戸水は今申し上げましたように、永久的ではない、こういうことの中から、これはやはり避けていった方がいいのではないかとこんなふうに思えます。尚かつ地下水は、あまり地下水を取ると地盤沈下ということもございます。そんな事も一つ含めて考えていきたいと思えます。尚、水が一滴も無くなる時期がございますので、そういう時には全く魚も昆虫も、生物も棲みません。そういうことで是非ダムを造る必要がある。もうちょっとお願いいたします。そして最後に私は敢えて申し上げます。水関係のこともちょっとやっておりますから、私の感じで普段思っているんですが、敢えて申し上げますけれども、水の一滴は血の一滴である。こういういわゆる認識を持ってこれから私は対応していかなければならない。こんなことを一つ部会の皆さん方にも特にお願いを申し上げます私の意見といたします。ありがとうございました。

風間部会長

はい、ありがとうございました。続いて25番の方お願いいたします。

桜井興一公述人

中野市竹原桜井興一です。ダム建設賛成の立場からご意見を申し上げたいと思えます。私たちは荒ぶる夜間瀬川扇状地の頂点に位置する地域に住んでおまして、常に水害の恐怖が付きまとい、治水、また利水の対応に苦心している地域の一人でございます。現在実施されてる上流の地すべり防止工事、それから治山工事、砂防工事と、それから中下流の流路複断

面化による偏流対策護岸強化、それから堆積土砂の除去を引き続き実施される中での今回のダム案とパラペット案ですが、私は将来に向けて早急に必要な治水、利水、それから洪水対策を考える時、概算費用とか自然環境への負荷、それから地下水、まあ井戸案として提示されておりますが、その中でも井戸案に関しましては硝酸、亜硝酸性窒素の除去施設とか維持管理費とか大変多くの問題を抱えているわけです。その中で資料にもありましたけれども100年換算でダム案では治水で24億円、パラペット案では治水に3億円、これは県の関係だけでいいということですが、ダム案の関係で利水で1万3千m³これは割愛による1万3千m³ですが、それには120億円、それからパラペット案では508億円とのことで、費用だけでいずれに対しましても比較することはどうかとも思いますけれども、いずれにいたしましても水道料金が大変心配されます。それからこの地域に生活するものとして行政にお願いすることは、安全で住みよい地域です。水資源を守る山林管理や保水力を高めるには多くの費用と時間と努力が必要だと思います。特に水資源が必要とされる現代社会におきましては、洪水から地域を守り、安心して美味しい水がいつでも飲め、河川に安定した水量を確保、まあ洪水対策ですけれども、そのためにですね、パラペットが恒久的な治水対策だとは私は考えられないわけです。夜間瀬川の偏流によって河道が堤防に向いたときには簡単に乗り越えられてしまうことが心配されます。上流に造るコンクリートダム言いますが、角間ダムでございますが、住民の生活空間である周辺にパラペットというコンクリート構造物を造る事が、知事さんも仰ってらっしゃるけれど「地球環境に負荷を与えない」という理念に沿うものかどうかということが大変疑問視されるわけです。かんがい期に夜間瀬川の流量不足が生じている年もありまして、下流の耕作者にも大変支障をきたしているところでございます。河川の維持流量と申しますのは、その確保というものは大変必要ではなからうかと私は感じております。中野市の水道水源に関しましては、100年換算の投資額がダムに比較して3.5倍というような資料もありますけれども、これは将来水道料金の値上げとかそういうところに結びつくのではないかと心配がされるところです。中野市の水道料金は決して現在でも安い方では無いと思います。今後更に値上げをするということは市民生活を大変圧迫することになるため賛成は出来兼ねません。いずれにいたしましてもそんな事で将来的に地域住民が安心して住める地域ということで、今考えるには、現状では角間ダムが絶対必要ではないかと考えるわけです。以上を申し上げまして私の意見とさせていただきます。どうもありがとうございました。

風間部会長

はい、ありがとうございました。続いて26番の方お願いいたします。

馬島榎子公述人

中野市吉田の馬島榎子です。角間川の治水・利水対策に関する案が発表されましたが、私はダムによる治水・利水案に反対の立場で申し上げます。今までダムで果たして下流の洪水時の安全は守られるのかとか、自然を破壊するのではないのかとか、堆砂が著しくてすぐ埋まってしまうのではないのか、ダム湖の周辺の土砂崩れでダムの決壊の恐れがあるのではないかなど、ダムには問題点がいろいろあると聞いていたので、ダム建設には反対してきましたし、今も反対です。ところがにわかには水道水が足りない、ダム無し案では何倍もの費用がか

かる、などと論点が変わり、ダムによる利水案が浮上ってきて、しかもダムの問題点はすっかりクリアされており、ダムは安全である、堆砂を取り除く費用を含めてもダム案の方が遥かに安いとダム建設の利点がクローズアップされてきてびっくりしています。利水対策案としてのダム建設であるというのであれば、利水もダム無しで出来ないものかと考えてみました。家庭用水道水を使っている主婦として、水不足にどう対処したらよいかという思いです。私は「中野市消費者の会」の会員として、1980年頃、夜間瀬川の水質検査の値の悪さ、市内を流れる八ヶ郷用水の汚れを知って、川を清流に甦らせたい、子供達が安心して水遊びの出来る川を取り戻したいと、家庭用食用廃油の回収をはじめ、その仕事は20年以上続けています。そんな消費者の会の活動の中で、私は物を無駄にしない、大切に使う、リデュースということを学んできました。そこで私は節水と雨水の利用、水の再利用の工夫で、ダム無しでも水不足を補えるのではないかと考えました。節水について私達はどんなふうに使っているのでしょうか。蛇口から水も湯も溢れるようになってきます。それを掛け流しにして洗い物をし、顔を洗い、歯を磨く、シャワーを使っています。いろいろな節水法はあると思いますが、1番、洗い物は掛け流しにしない。ご飯の汚れなどは30分くらい水に漬けておくとよく落ちるので節水につながる。2番、顔を洗うときは洗面器を使う。3番、歯を磨くときは水を止める。4番、皿や容器に残ったソースなどは古布で拭き取ってから洗う。5番、洗濯の回数を減らす。6番シャワーに節水ヘッドを付けるなどです。主婦としてちょっとした心遣いで節水は出来るのではないのでしょうか。また、県ではゴミ減量目標1日50㌔、一人50㌔、中野市では17~18㌔とか、節電などは呼びかけていますが節水一人一日50㌔などと呼びかけをしてもよいのではないのでしょうか。雨水の利用と水の再利用について。限りある水資源を無駄にしないように、雨水や一回使って下水処理した水を再利用する試みが工夫されているそうです。東京・両国の国技館、東京ドーム等では既にも実施されているようです。学校や公共の場所で先ず取り入れて欲しいと思います。学校への導入は即子供達への環境教育につながります。散水や植木への水やり、消火用水、洗車用水等、家庭での利用では簡易雨水システムというものが販売されていますが、その導入に助成をすることも考えて欲しいと思います。主婦としてささやかな方法ですが、皆に呼びかけて、小さな努力を積み重ねたい。最後に21世紀は自然環境再生の世紀であり、美しい地球を守るために、田中知事の脱ダム宣言の理念をこの地域に生かすよう訴えたいと思います。以上です。ありがとうございました。

風間部会長

はい、ありがとうございました。続いて27番の方お願いいたします。

小田切健男公述人

私は中野市一本木に住んでおります小田切健男でございます。私は田中知事の脱ダムに関する理念と理想には共感を持っております。しかしながら、この角間部会が示された中野市の利水代替案につきましては、いささか疑問を呈している次第でございます。すなわち中野市に新たに井戸5本を掘削し、日量1万m³を確保する案に疑問を抱かざるをえられません。先ず第一に委員の皆様がご承知のように、現在中野市の取水可能量の約半分9,745m³を中野市は6本の地下水、いわゆる井戸から取水をしています。この6本の井戸の地下水からは、取水は年々水量が減り、水質は窒素をはじめ、硝酸、亜硝酸性窒素を含み、全く良質な問題

の無い井戸は高丘水源ただ1本であります。また、6本の内1本は既に砒素の含有量が多く廃止されておるのが現状でございます。また、中野市内に試掘された井戸も数本あるようでございますが、水質検査の結果は残念ながら使用出来ず、閉鎖されているのが中野市の現状であります。また、唯一の表流水の伊沢川より、伊沢川より日量約5千m³を取水しておりますが、この川はご存知のように、上流に民家があり、最近では灯油の流入事件もあり、特にまた夏季の水質の汚染は甚だしいものがあります。また、日量5千m³を取水している千曲川の伏流水も汚濁があり、鉄、マンガンが検出され、ある識者は中野市の地下水源は温泉源を上流に持つ中野市の水質の宿命と言わざるを得ないと言われております。従って部会が提案された中野市が今後必要とする1万m³を井戸、いわゆる地下水の掘削に頼ることは将来を担う子供達の健康を考えると私は極めて危険であると思います。また、仮に井戸に水源を求められたとしても、これらの有毒物質を含む源水を飲料水に適するようになるには当然希釈、及び除去施設を設置しなければなりません。そのことは先程の資料にもあり、中野市の場合にはダム建設費に対し3倍、山ノ内町においては約12倍と言われております。当然これは市民の水道料金に跳ね上がり、中野市の普通の家庭の2か月分の平均使用量40m³としますと、水道料金を試算した場合にダムの場合は現状より115%の7,296円、井戸地下水の場合には138%の8,664円と試算されています。これはこれから迎える高齢化社会が進む中で、特に老人家庭に大きな負担を残すことになると思います。二点目につきましては利水事業は地域の将来の展望に当たって、数十年先の水需要を見越して、長期的な対応が必要です。私も数回利水部会を傍聴した中で、当部会で確認いただいた平成26年度までの中野市の給水量は日量23,244m³、山ノ内町では15,100m³の試算の中で不足する水、いわゆる1万3千m³を安定的に供給するにはどうしても自然水を備蓄調整できるダムに頼らざるを得ないと私は思います。三点目は角間ダムの建設は昭和51年山ノ内町公共下水道計画の夜間瀬川放流に始まり、翌52年に県がこれを認可したことに発しております。その後いろいろ県、山ノ内町、中野市と話し合いが置かれ、その中から角間ダムの建設を県が認めたと思います。以来県も今日まで十数億円の調査費計上し、建設現場の安全性、その他についてデータは私は信じたいと思います。ダム一体の森林整備をはじめ、安全対策には万全を期す必要がありますが、ダムが要らなければ、大自然の中にダムが要らなければ私はそれに越したことがないと思います。しかし生命の源である良質の水を安全で美味しく、しかも水を安く安定的に供給する義務が水道事業者にあると思います。以上これらの事を総合的に鑑み、この角間ダムの建設は夜間瀬川という運命共同体を有する中野市、山ノ内町にとって大いに必要不可欠であると、私は早期の実現を望みます。

風間部会長

はい、ありがとうございました。続いて28番の方お願いいたします。

湯本市蔵公述人

私は山ノ内町寒沢から来た湯本市蔵です。委員の皆様方には過密なスケジュールの中、精力的に審議をいただき大変ご苦労様です。さて2月7日の北信ローカル紙に「ダムなし利水/100年換算 総費用3~10倍の508億円」の記事が載りました。これを見るとダム建設の方がいいと誰も思うと思います。私は田中知事の脱ダム宣言があってから、再度現場を見たり、

資料を調べる中でダム建設は中止した方がいいと思っております。念のために申し上げますが、私はダムが全ていけないと思っただけではありません。これまでに造られたダムの多くは治水、発電、かんがいや飲用水の為に役立っております。しかし、堆砂が予想以上に速く機能しなくなったダム、清流、渓谷美、魚などの生物が失われる環境破壊が問題になっているところ、ダムが原因で被害が出ているところも多いからです。そもそも、角間ダムはどうして造ることになったのでしょうか。流域団体がダムを要望したところはなく、同意を求められて困っている水利組合もあります。八ヶ郷水利史によりますと、山ノ内町の公共下水道の放流問題から夜間瀬川の増水対策としていろいろな経過があり、あわせて両自治体の水源対策として構想されたとあります。事実、砂防の角間ダムにその記載どおりの放水施設が残っております。また、最初は横湯川に計画されたが地質が悪く、角間川に変わったとも聞いております。つまり経過は先にダムがあり、そのためには多目的ダムでないと駄目、そこで水道水源として1万3千m³必要ということになったのではないかと私は考えております。さて、中野市のことはよく判りませんが、山ノ内町の3千m³は妥当か疑問です。使用水量は、ここ7年連続で減少し、平成13年の最大取水量は11,003m³、これは日量です。今後人口が減少すると予想されており、下水道工事と併せて進めている老朽管の布設替で漏水が止められれば、現状で十分いけるのではないのでしょうか。それなのに平成26年の計画取水量は15,330m³/日で、ダムによらない対策案では新規取水に初期投資額19億円、100年換算投資額154億円、ダム建設の12.8倍かかるというのです。本当に渇水の時は少し不便でもお互いに節水しあって考えれば何とかなると私は思います。洪水対策については基本高水の計画降水量は242mm、これは日量です。昭和61年9月の洪水パターンだということですが、これは学問的な方法で私は妥当だと思います。ダム無し案で是非お願いします。ただしいつ来るか判りません。起こる予想がついているわけですから、水防倉庫を用意し、いつでも対応できるようをお願いをしたいと思います。さて、本題はダムがいいか悪いかです。昭和56年から調査をしていますが、長引いてきたのは地質にも問題があったからではないでしょうか。ダムサイト及び上流右岸側には変質作用を受けた軟弱な地質や透水層があります。地山も崩れ易く本沢の角間川合流点付近で、昨年ですな山崩れがありました。林道笠岳線でも法面や路肩の崩落がありました。ダム湖が出来ればいっそう危険になります。また、最大の問題は堆砂です。計画でも堆砂容量は総貯水量の30%で、これは須坂市の豊丘ダムの17.8%、群馬県の四方川ダムの6.5%と比べても異常に高いわけで、貝鐘、角間の砂防ダムの実績、角間川本川の下り川地籍の治山堰堤の埋まり状況を見れば、もっと堆砂するのではないかと思います。これを解決するためにも本沢に砂防ダムを建設中ですが、それもお金がかかります。たまった岩石を浚渫するにもお金がかかります。未来永劫そんなことが出来るのでしょうか。昔の緑の森と清らかな清流、魚など水性生物が生きられる自然な状況に近づけることこそ必要ではないかと思います。国も町も財政難、福祉や暮らしに金が回らなくなっている現状では将来負担のかかるものは作らない。もうちょっとです。本当に困ったときは、水の再利用、水利権の譲り合いも含めてお互いに助け合うことが必要ではないのでしょうか。ダムはやめて、代替案はもっとゆっくり検討して欲しいと思います。以上です。

風間部会長

ありがとうございました。続きまして29番の方お願いいたします。

柴本久公述人

私は中野市四条の柴本です。私が生まれ育った西条は湧き水が生活用水でカドミウム汚染がされるまでは水道水は口にした憶えはありませんでした。転居を機に全面水道水に切り替えた結果、特にお茶にすると判るのですが大変不味く、それから温水器のパイプは5年程で詰まってしまいました。そんな経験と夜間瀬川の下流で生活する一人として、治水・利水を考えた結果、ダム建設ではなく、治山と河川改修による治水・利水案を支持する立場から意見を述べさせていただきます。第一に世界的にみて、ダム建設ではなく撤去の時代に入っております。国内的にみても1992年8月、九州ダムサミットが開かれ、その中で上流と下流との交流、国・県の振興策を求める共同宣言が採択され、ダムが出来て栄えた町なしというのが、いまやダムを持つ市町村の共同の認識になっており、我国でも遅ればせながらダム撤去第1号が決まり、新しい段階を迎えました。第二にダムの上流は志賀高原を中心とする上信越国立公園です。長野オリンピックのずっと前から志賀高原の自然の豊かさはユネスコからも折り紙付きですが、例えダム開発という名目があってもこれ以上の自然破壊は観光地志賀高原の大きなダメージとなることは確実です。今までにも萱の平のブナの原生林の伐採、観光客誘致と称しての志賀・草津ルート、オリンピック道路開発で観光客は増えるどころか減る一方です。旅館、ホテル、ペンションの閉鎖、経営不振の原因になっていることは明らかだと思います。一方自然破壊から免れた一例を示しますと、農地にも牧場にもならない役立たずの湿原といわれ開拓を拒み、自然を守ってきた釧路湿原は現在観光地の眼玉となっております。また、ブナの原生林を二分する春秋道路建設を止めさせた白神山地は共に世界遺産に登録され、また、戦後間もなくのダム建設計画から市民の反対運動でダム建設を阻止した尾瀬沼は水芭蕉やニッコウキスゲの最盛期には一日2万人もの観光客が訪れる自然観光のメッカとなっております。そしてダム建設は周辺の環境に負荷を与えるではありません。今心ある漁民の人々は森を育てています。それは豊かな森に育まれた清流と、その清流の流れに乗った木の葉が、海中のミネラルなどと合体して多くの植物プランクトン、動物プランクトンを発生させ、それが魚を育てる源泉となるからです。一方ダムが建設されると水温を上昇させ、岩魚、山女、山椒魚などの水性動物の生息域を狭めるだけでなく、川虫等の餌である海産資源の元となる緑の葉がダム湖に沈殿するとヘドロ化し堆砂で、堆砂の為放流すると赤潮などを発生する、近海漁業に大きな影響を与えたり、海底の砂漠化を促進させるなど、地球環境に大きな影響を与えるからです。だからダム建設により自然の流れは制約を受けると魚や水性動物を捕食する動物だけでなく、植物までも影響を与える環境破壊となる。そういう上に立ってダム案には反対です。以上でまとめませんが私の主張とさせていただきます。ありがとうございました。

風間部会長

大変ありがとうございました。続いて30番の方お願いをいたします。

武田良文公述人

中野市の赤岩の武田良文でございます。水利計画にかつて関わったそういう立場から意見を申し上げます。昭和40年代の河川の水質が急速に悪化を辿り、表流水を5km³水道に取

り込む、そうしたことによって河川の、いわゆる表流量に影響をし、加えて生活排水の汚染によりまして、下流の水田耕作に支障が生じ、市街地水路を用排水に分離する水質障害対策事業の実施や、開発の進む上流の旅館街の排水による水質汚染に対して、河川浄化を目指して夜間瀬川を浄化する会等が結成をされ、監視活動や啓発活動の取り組みによって水利権者との紛争がようやく解決に向ったという経過もあるわけですが、更に山ノ内町と下水道の放流先を巡って水利権者との紛争が再燃をし、昭和56年山ノ内町と中野市が流域総合開発促進期成同盟会が設置等されて、洪水もさることながら、度重なった慣行水利権との紛争調整の結果、貯水による新たな資源確保による平時流量の確保や上水道の取水地点のダムへの移行等、それに用途別再配分を加えてダム建設要求へと至った慣行水利権との調整の経過は尊重されるべきだと、先ず主張しておきます。市の水道水はその後、需要増大に関して何箇所かの井水の開発により、伏流水を含めて約65%を地下水に頼っているのが現状であるわけですが。主要水源の一つである古牧水源の高濃度の鉄分、あるいはマンガン等の除去は多量な薬品に頼る浄水施設であるわけですが。これと全く同じ様な施設は原水コスト、或いは水質等の事から隣の飯山市では既に千曲川伏流水の水源は完全に廃止をされている事を見ても、水質が良くないということは頷けることだと思っております。また、その他の井水にあっても上流の温泉源の影響により砒素の基準値を越す問題は、かつて市民プールの取水断念した、井水からの取水断念をした経過がまだ実は記憶に鮮明に残っているわけですが。扇状地の上流に向ってその水系が、砒素の水系が連なっていることも既に定点観測等の調査で明らかになっているところでございます。昨年には地下水が人間や動物の排泄物による汚染信号とされる硝酸、亜硝酸性窒素の同時検出等の原因の定かでない汚染の実態も出て参っております。これは同時検出は飲料水としては不可能という事になるわけですが。あるいはまた一昨年の中野市の灯油流出による汚染事例等、水質汚染に対する不安が後を絶たないというわけになるのでございます。昨年秋の上伊那の辰野町の井水の石油による汚染事故等も、事例等も他山の石として重く受け止めておかなければならない。こうした状況の下で新たな井水の確保には極めて厳しい制約がある地帯ではないかと思っておりますし、そういう面から地下水依存は既に私共中野市にあっては既に限界にあるというふうに思っているわけですが。新幹線の湧水利用は鉄道排水の有効利用について検討されているようですが、軸道敷ということから飲料水としての安全性には問題が残るというふうに思います。ダム建設による新たな水資源の確保と用途別再配分は慣行水利権の在り方にも大きな指針を示すとともに、より良質で安全な水資源の確保と有効利用は中野市、山ノ内の長年の悲願であり、利水の立場からダム建設を強く望むものであります。ありがとうございます。

風間部会長

はい、ありがとうございました。続きまして31番の方お願いいたします。

田中功公述人

中野市若宮の田中功と申します。中野市の利水対策について申し上げます。部会で検討された将来の計画取水量。この設定値が先ず非常に多すぎると、過大すぎるということを指摘したいと思っております。多分人口の増加と生活様式の変化とか、産業構造の変化などを一定の公

式に当てはめて計算されたのだらうと思いますけれど、それは極一般論だと思います。取水源が十分にある場合の話だらうと私は思います。中野市のように地下水には硝酸性、亜硝酸性窒素とか砒素とか、また川の水からは砒素、伏流水からは鉄とマンガンが検出される、水源がこんなような状態のこの地域で、一般論は通用しないと思います。また、それをもって当てはめるのはおかしいと思います。水源がこんなような状態の地域ですから、一般的な話ではなくて、条件が悪い所に住む者は、それなりの条件が悪い所に住むなりの水道の使い方を考えるべきではないでしょうか。つまり水道の入りと出の両方を考えてこそ水道行政だと思ふんです。今まではあまり出の方は考えていなかったと思います。それを同時にやっていく。取水とすればそれだけに限定されてやってきたようで。入りと出は車の両輪で、両方考えなかったら、この入りの量の選定と言うのはあまり意味がないのではないかと思います。さりとて耐乏生活をしろとそういう意味ではありませんけれども、無駄にしていたのをやめると、その程度の話でいいと思います。市とすれば、水道事業者としては足りなくなったから、それこそ困るということで、余裕を見て多めに計算された、そこまでは理解できるんですけども、過大な見込みは必要以上の投資となり、それは即市民に必要以上の負担を強いることになると思います。例えば平成 26 年の予測値を 12 年度と比較してみると、給水人口が 8% 増加に対して、計画取水量が 24% 増加しています。8% に対して 24% 増加しています。更に最大給水量をみると 30% の増加を見込んでおります。これはどういうふうに理解したらいいのか私には判りません。冒頭に申し上げたように、生活様式の変化だとか、産業構造の変化を考慮しても尚かつ過大ではないかと思ひます。具体的に小さなことから言いますけれども、市が水の無駄遣いをもう少し市民に対して啓蒙するような方策が必要じゃないかと思ひます。例えば、今生活用水とその他に下水道には流さない水の使いかたをする人は別のメーターを付けて、それは下水道料金に跳ね返らないような、そういう方式があるそうです。実際どのくらいこれを適用されているかは判りませんけれども、例えば庭木に水をやるとします。水道の水を使って水をやります。今のような方式ですと下水道に跳ね返らないわけですから、ざぶざぶ使います。これを、この水も下水道料金に跳ね返るんだというふうになったら、そうすればある程度加減するでしょうし、場合によっては雨水や川の水を使うようになる。わずかなことです。しかし 4 万市民はわずかな事の積み重ねで、かなりの量を出の方を制限できると思ひます。次に水源の問題一つ提案したいと思ひます。千曲川の表流水、この利用を提案いたします。ついこの間まで、先程も話がありましたように、飯山市がこれを水源にしていたことから、たぶん基準を越すような有害物質は無いのではないかと思ひます。場合によっては除外施設が必要かも知れませんが、いずれにしても、そこから古牧から汲み上げた水を、壁田付近に緩速ろ過処理の浄水場を、緩速ろ過です。今の急速ろ過の浄水場じゃございません。緩速ろ過の浄水場を作ります。緩速ろ過の浄水場なんてあまり聞かないんですけども、水泳プールのような池の底に砂を敷き詰めて、ゆっくりと水を通過させる、それだけの施設です。砂の層で微生物が活動して、微生物の力で水を浄化する、要するに自然界の浄化作用を利用するだけの浄水場で機械設備が殆ど必要ありません。ですから電気代はいりません。自然界の生物浄化をするので薬品代も入りません。薬品代、薬品を使わないから美味しい水が出来る、こういう方法もありますので是非、千曲川の表流水を使って緩速ろ過... (ベル)

終ります。ありがとうございます。

風間部会長

はい、それでは最後に 32 番の方お願いいたします。

関千尋公述人

山ノ内町の関千尋と申します。これまで新聞やテレビでの間接的な情報でしかこの角間ダム建設の流れを把握しておりませんでした。本日私の前にお話をされた大勢の皆さんの話をお聞きしまして、更にダムによる治水・利水はよく理解できました。また、今ここで 100 年後の子孫に褒められる決断を下すのは、本当に慎重で勇気がいることだと思っております。ダムを建設したら幾ら、しなかったらもっとうなるという費用の数字だけを見て生活への締め付けを連想し、いろいろな考えを考察する中で、私は現代に生きる普通の女性として、敢えてダムに頼らない道を探したいと思うものであります。この場を与えていただいたことに感謝をしております。長野県治水・利水ダム検討委員会第 1 回目の中で、中野市の将来予測、給水人口が 7.7% 増加すると一日最大給水量 29.9% 増加とありましたが、給水人口の増加と給水量の増加率が同じで無いというのは、私達が生活の中で水を無尽蔵のもののように使いすぎているのではないのでしょうか。どこかで背負い水という言葉聞いたことがありました。これはあるところの言い伝えですけれども人が生まれて死ぬまでには、決められた量の水が与えられていて、それを使い切った時に人生の最後を一口の水で閉じていくというお話でした。節水はまさに命と共にあるというお話でした。また、長野オリンピックの前、志賀高原のあるスキー場の開発のために山の斜面の木が伐採されました。私はその年の春先、グレンデの真下の 500 名を収容できる大きなホテルにりましたが、一夜にして雪解け水が鉄砲水となり、地下がいっぱいになるほどの被害を目の当たりにしました。この時樹木の保水力の力強さというものを知りました。その後グレンデに水を入れるという技術で被害はなくなったのですが、長野オリンピックの際には志賀高原は自然工法に随分と拘りました。そしてまた、それは大きな評価を受けました。私達は自然の中で生かされている事をよく思い起こし、先人たちの知恵や精神を大切に、未来へのつなぎ役として、謙虚になるべき時だと思えます。そしてそれが出来たとき、脱ダムへの案を出し、力強い一歩が踏み出せるのではないのでしょうか。生活のため、農業のため、安定した水源確保は本当に必要だと思えます。この問題に結論を出させねばならない日まで粘り強く、多方面から見つめ、こうして意見を出し合うことそのものがよい結果を生むことだと私は考えております。ありがとうございました。

風間部会長

以上 32 人の皆様方に公述をしていただいたわけでございます。本日は私共委員、角間川部に属する委員として、非常に貴重な、そしてまた、有用な御時間を皆様方と共有が出来て大変感謝をしているところでございます。この皆様方の多様なご意見をいうものをこれからの審議に必ずや役立てていきたいというふうに思っております。本当に今日は皆様方お時間と、そしてお知恵を拝借賜りまして心から敬意と感謝を申し上げながら本日の公聴会を終了をさせていただきます。進行に関しまして皆様方のご協力に、重ねて感謝を申し上げます。本日の公聴会を終了させていただきます。ありがとうございました。

